

科 目 名	担 当 者		担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
VM2M1C03 声楽実技研究Ⅲ	常森 寿子・桑原 理恵 他		クラス分け	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	※				A B D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画										
声楽実技研究Ⅰ・Ⅱで学んだ声楽の基礎技術・言葉の発音を習得し、各自に応じた楽曲の演奏表現ができる。＊実技試験は4分以上6分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わない。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要を確認する	学修計画を立てる	9	各自課題曲 8（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する			
	2	各自課題曲 7（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	10	各自課題曲 9（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する			
	3	各自課題曲 7（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	11	各自課題曲 9（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する			
	4	各自課題曲 7（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する	12	各自課題曲 9（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する			
授業の概要											
声楽実技研究Ⅰ・Ⅱにひきつづき歌唱の基礎である身体の使い方、呼吸法を学びながら声に合った楽曲を選んで勉強していく。楽曲に加えオペラアリアも取り上げ、表現の幅を広げる。	5	各自課題曲 7（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する	13	各自課題曲 9（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する			
	6	各自課題曲 8（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	14	実技試験に向けたまとめ 1（歌詞や内容の理解・作品考察）	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しよう表現したいかをまとめる			
	7	各自課題曲 8（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	15	実技試験に向けたまとめ 2（伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる）	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる			
	8	各自課題曲 8（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する	備考 ※声楽コース必修						
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定			成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験		100%	正確な発音と音程、曲の表現			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
VM2M1C04 声楽実技研究Ⅳ	常森 寿子・桑原 理恵 他	クラス分け	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	※				A B D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
声楽の基礎技術・言葉の発音や表現法をさらに習得し、各自に応じた楽曲を深く理解した演奏表現ができる。＊実技試験は 4 分以上 6 分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わない。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要を確認する	学修計画を立てる	9	各自課題曲 1 1（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	2	各自課題曲 1 0（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	10	各自課題曲 1 2（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	3	各自課題曲 1 0（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	11	各自課題曲 1 2（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	4	各自課題曲 1 0（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	12	各自課題曲 1 2（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する		
授業の概要										
声楽実技研究Ⅲにひきつづき歌唱の基礎である身体の使い方、呼吸法を学びながら声に合った楽曲を選んで勉強していく。楽曲の内容を深く掘り下げて研究し、表現につなげる。	5	各自課題曲 1 0（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する	13	各自課題曲 1 2（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	6	各自課題曲 1 1（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	14	実技試験に向けたまとめ 1（歌詞や内容の理解・作品考察）	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しよう表現したいかをまとめる		
	7	各自課題曲 1 1（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	15	実技試験に向けたまとめ 2（伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる）	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる		
	8	各自課題曲 1 1（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	備考 ※声楽コース必修					
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定			成績 評価 基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等					実技試験		100%	正確な発音と音程、曲の表現		

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS2MIC11 器楽実技研究Ⅲ（ピアノ）	松崎 伶子・川口 みさき 他	クラス分け	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	必修				A B D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
楽曲の様式を理解しながら、深い内容と確かな技術および表現力を養うことを目標とする。技能と知識、態度を兼ね備えられている。バロック音楽の様式を理解する。各自のレベルに合った曲目を選択し、完成度を高める。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	セメスターの学習計画を立てる バロック、古典派の曲を聴く	レッスンまでに 1 曲完成させておく	指示された事柄 について練習を 進める	9	課題曲を分析する① 奏法・音色を中心に学修する	運指および奏法 の予習	奏法の掘り下げ		
	2	バロックの楽曲を学ぶ① バロック音楽のジャンル曲 を聴く	バロック音楽に ついて調べる	バロックの時代 背景を復習する	10	課題曲を分析する② 表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て 強弱をつける	指示された事柄 について練習を 進める		
	3	バロックの楽曲を学ぶ② 選曲した楽曲の読譜	各声部の練習	各声部の独立	11	課題曲を分析する③ 音色を中心に学修する	時代様式に即し た音色作り	音色の追求		
	4	バロックの楽曲を学ぶ③ 選曲した楽曲の分析	多声音楽につい て調べる	奏法の追求	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容 まで到達するよう 練習する	指示された事柄 について練習を 進める		
授業の概要										
器楽実技研究Ⅰ・Ⅱで修得した基礎的技術および、バッハのインベンション・シンフォニア・組曲などを基本として、平均律Ⅰ・Ⅱ巻よりプレリュードとフーガを用い更に深く読譜と技術を習得する。	5	J.S. バッハの様式を中心に学ぶ	指示された内容 まで到達するよう 練習する	指示された事柄 について練習を 進める	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の 調和		
	6	課題曲を学ぶ① 楽曲の読譜	課題曲の時代背 景を調べる	読譜の徹底	14	課題曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫し て練習	指示された事柄 について練習を 進める		
	7	課題曲を学ぶ② 楽曲の分析	楽曲分析	指示された事柄 について練習を 進める	15	総括	指示された内容 まで到達するよう 練習する	指示された事柄 について練習を 進める		
	8	課題曲を学ぶ③ 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して 練習	備考 ※ピアノコース必修					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績 評価 基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等					実技試験は複数の教員で 採点し評価する		100%	課題曲の完成度		

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS2MIC12 器楽実技研究Ⅳ（ピアノ）	松崎 伶子・川口 みさき 他	クラス分け	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	必修				A B C D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
ローマン派の内容と表現法をよく理解し、専門的な技能に加え豊かな感性を表現する演奏を目指す。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	セメスターの学習計画を立てる	レッスンまでに 1 曲完成させておく	指示された事柄 について練習を 進める	9	音楽的表現の追求① 奏法・音色を中心に	奏法の予習	奏法の掘り下げ		
	2	ローマン派音楽の理解① ローマン派の時代背景を学ぶ	ローマン派の音楽 について調べる	ローマン派の時代 背景を復習する	10	音楽的表現の追求② 表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て 強弱をつける	表現技術の徹底		
	3	ローマン派音楽の理解② 読譜と分析	楽曲分析	指示された事柄 について練習を 進める	11	音楽的表現の追求③ 時代背景を中心に音色を作る	作曲家に即した 音色作り	音色の追求		
	4	ローマン派音楽の理解③ 様式を中心に学修する	様式感を身に着ける	様式に即した奏 法の追求	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修 する	指示された内容 まで到達するよう 練習する	指示された事柄 について練習を 進める		
授業の概要										
ローマン派の作品について広く学び、より高度な技術と音楽的表現を深く探求する。	5	課題曲の構成① 技術力向上と練習法	技術の探求	指示された事柄 について練習を 進める	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学 修する	音色の追求	楽曲全体の音の 調和		
	6	課題曲の構成② 奏法を中心に学修する	指示された内容 まで到達するよう 練習する	奏法の工夫	14	課題曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して 練習	指示された事柄 について練習を 進める		
	7	課題曲を分析する① 奏法を中心に学修する	ローマン派の奏法 を作曲家に即して 練習	指示された事柄 について練習を 進める	15	次年度への展望 ・総括	指示された内容 まで到達するよう 練習する	指示された事柄 について練習を 進める		
	8	課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	転調を意識して 練習	備考 ※ピアノコース必修					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績 評価 基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等					実技試験は複数の教員で 採点し評価する		100%	課題曲の完成度		

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS2M1C11 器楽実技研究Ⅲ(管弦打)	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	必修				A B D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
基本的に演奏家を目指すことを前提とし、常に安定した演奏ができるように基礎となる土台を築き、高めてきた1年次から更に難易度を上げ、応用力を付けていくことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の学習計画および内容の確認 他	事前に考えておく	学修内容の確認と復習	9	エチュードおよびソロ曲⑦(エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	2	実技試験用ソロ曲の選定	候補曲を考えておく	学修内容の確認と復習	10	エチュードおよびソロ曲⑧(エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	3	エチュードおよびソロ曲①(エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習	学修内容の確認と復習	11	エチュードおよびソロ曲⑨(エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	4	エチュードおよびソロ曲②(エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	12	エチュードおよびソロ曲⑩(エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	5	エチュードおよびソロ曲③(エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	13	ソロ曲と伴奏合わせ①(粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする		
	6	エチュードおよびソロ曲④(エチュード課題後、ソロ曲のアーティキュレーション等の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	14	ソロ曲と伴奏合わせ②(ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの課題を修正する	反省を基に伴奏合わせをする		
	7	エチュードおよびソロ曲⑤(エチュード課題後、ソロ曲のテンポや拍子の変化の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	15	ソロ曲と伴奏合わせ③(実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加え、更に音楽性自体も高める	実技試験の総括と反省		
	8	エチュードおよびソロ曲⑥(エチュード課題後、ソロ曲のアゴーギク等の研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	備考 ※管弦打楽コース必修					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする			成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等					前期実技試験		100%	演奏内容(表現力・ビッチ・テンポ感等)		

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS2M1C12 器楽実技研究Ⅳ(管弦打)	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	必修				A B D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
基本的に演奏家を目指すことを前提とし、常に安定した演奏ができるように基礎となる土台を築き、高めてきた1年次から更に難易度を上げ、応用力を付けていくことができる。後期は更に難易度を上げ、応用力を付けていくことを目指した前期の内容を積み重ねていくことにより、確実に安定した演奏に向かうことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の反省と後期の展望について 他	前期の反省と後期の展望を考えておく	学修内容の確認と復習	9	エチュードおよびソロ曲㉗(エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	2	実技試験用ソロ曲の選定	候補曲を考えておく	学修内容の確認と復習	10	エチュードおよびソロ曲㉘(エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	3	エチュードおよびソロ曲㉙(エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習	学修内容の確認と復習	11	エチュードおよびソロ曲㉚(エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	4	エチュードおよびソロ曲㉛(エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	12	エチュードおよびソロ曲㉜(エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	5	エチュードおよびソロ曲㉝(エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	13	ソロ曲と伴奏合わせ㉑(粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする		
	6	エチュードおよびソロ曲㉞(エチュード課題後、ソロ曲のアーティキュレーション等の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	14	ソロ曲と伴奏合わせ㉒(ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの課題を修正する	反省を基に伴奏合わせをする		
	7	エチュードおよびソロ曲㉟(エチュード課題後、ソロ曲のテンポや拍子の変化の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	15	ソロ曲と伴奏合わせ㉓(実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加え、更に音楽性自体も高める	実技試験の総括と反省		
	8	エチュードおよびソロ曲㉠(エチュード課題後、ソロ曲のアゴーギク等の研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	備考 ※管弦打楽コース必修					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする			成績 評 価 基 準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等	後期実技試験				100%	演奏内容(表現力・ビッチ・テンポ感等)				

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR2M1N19 創作応用演習Ⅲ(作曲)	出田 敬三 他	複数	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	必修				A B C D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
作曲・編曲の全般に必要な確かな知識と技術を習得し、幅広いジャンルの音楽をマスターする。 豊かな感性と創造性を作曲と編曲を通じて表現し、創作を通じて自己表現を行う基礎を身につける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	創作応用演習Ⅲの学修課題内容の説明 課題の目標と取り組み方について	自作品の創作、 創作応用演習Ⅱ 全般の復習	課題の練習、演 習、鑑賞	9	コード進行（各種のサブドミナント）・ 和声実習（Ⅴ度の属7）	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習		
	2	コード進行・和声実習の復習	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習	10	コード進行（代理和音の総括）・和声実 習（Ⅴ度の属7）	課題実習・鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習		
	3	コード進行（ベースランニング、カウ ンターライン）・和声実習（Ⅱ7の基 本）	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習	11	コード進行（補助和音・ずらし和音につ いて）・和声実習（Ⅴ度の属7）	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習		
	4	コード進行（ベースランニング、カウ ンターライン）・和声実習（Ⅱ7長 調・短調）	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習	12	自作曲のレッスン、記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習		
授業の概要	5	コード進行（ベースランニング、カウ ンターライン）・和声実習（Ⅱ7バス 課題）	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習	13	自作曲のレッスン、記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーション について	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習		
1.和声学a（和声実習）／2.和声 学b（コラール分析・演奏）／3. コード進行（クラシックだけでなく ポピュラーの楽曲のコード進行 を分析）／4.鑑賞（週3曲以上の 楽曲を鑑賞・レポートを作成す る）／5.モチーフ作曲（授業毎の 2～4小節の課題を器楽曲にまとめ る）／6.即興演奏法／7.作曲実習 ／8.楽曲アナリーゼ（バロック、 古典、ロマンの楽曲を分析）／9. 管弦楽法（室内楽）／10.対位法	6	コード進行（非和声音と準和声音）・ 和声実習（準固有和音について）	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習	14	自作曲のレッスン、記譜について③ 楽譜の仕上げと演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習		
	7	コード進行（非和声音と準和声音）・ 和声実習（準固有和音の連結）	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習	15	創作応用演習Ⅲのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記 試験のための課 題演習		
	8	コード進行（非和声音と準和声音）・ 和声実習（準固有和音を用いたバス課 題）	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習						
教科書・テキスト等	和声Ⅱ理論と実習(音楽之友社)、新総合音楽講座5コード 進行表(ヤマハ)、コラール名曲集(全音楽譜出版社)、管弦楽 法(ウォルター・ピストン)(音楽之友社)、名曲で学ぶ対 位法(音楽之友社)				成 績 評 価 基 準	評価方法		割合(%)	評価のポイント	
						定期試験 課題／レポート		80% 10%	筆記試験、実技試験、作品提出 鑑賞レポート（週3曲以上）	
参考書・参考資料等						平常点		10%	積極的な作品発表等の取り組み	

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR2M1N20 創作応用演習Ⅳ(作曲)	出田 敬三 他	複数	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	必修				A B C D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
作曲・編曲の全般に必要な確かな知識と技術を習得し、幅広いジャンルの音楽をマスターする。豊かな感性と創造性を作曲と編曲を通じて表現し、創作を通じて自己表現を行う基礎を身につける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	創作応用演習Ⅳの学修課題内容の説明 課題の目標と取り組み方について	自作品の創作、 創作応用演習Ⅲ 全般の復習	課題の練習、演 習、鑑賞。	9	伴奏付け・即興演奏・和声実習（Ⅳ7、ナ ボリ、ドリアの和音の連結）	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習		
	2	伴奏付け・即興演奏・和声実習（Ⅴ度 の属9の構成）	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習	10	伴奏付け・即興演奏・和声実習（Ⅳ7、ナ ボリ、ドリアの和音を含むバス課題）	課題実習・鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習		
	3	伴奏付け・即興演奏・和声実習（Ⅴ度 の属9の連結）	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習	11	様々な編成（合唱、室内楽、吹奏楽、管 弦楽）	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習		
	4	伴奏付け・即興演奏・和声実習（ソフ ラノ課題）	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習	12	自作曲のレッスン、記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習		
授業の概要	5	伴奏付け・即興演奏・和声実習（ソフ ラノ課題・転調を含む）	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習	13	自作曲のレッスン、記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーション について	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習		
1.和声学 a（和声実習）／2.和声 学 b（コラール分析・演奏）／3. コード進行（クラシックだけでなく ポピュラーの楽曲のコード進行 を分析）／4.鑑賞（週3曲以上の 楽曲を鑑賞・レポートを作成す る）／5.モチーフ作曲（授業毎の 2～4小節の課題を器楽曲にまとめ る）／6.即興演奏法／7.作曲実習 ／8.楽曲アナリーゼ（バロック、 古典、ロマンの楽曲を分析）／9. 管弦楽法（室内楽）／10.対位法 （バレストリーナスタイル、カノ ン、フーガまで）／11.スコア リーディング	6	伴奏付け・即興演奏・和声実習（Ⅳ 7、ナボリ、ドリアの和音の構成）	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習	14	自作曲のレッスン、記譜について③ 楽譜の仕上げと演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習		
	7	ファンファーレについて（既成曲の分 析） スコアとパート譜、移調楽器について	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習	15	創作応用演習Ⅳのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記 試験のための課 題演習		
	8	ファンファーレ制作	課題実習、鑑賞 （レポート作 成）、楽曲アナ リーゼ	課題復習						
教科書・テキスト等	和声Ⅱ理論と実習(音楽之友社)、新総合音楽講座5コード 進行表(ヤマハ)、コラール名曲集(全音楽譜出版社)、管弦楽 法(ウォルター・ピストン)(音楽之友社)、名曲で学ぶ対 位法(音楽之友社)			成 績 評 価 基 準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
	定期試験		80%		筆記試験、実技試験、作品提出					
	課題／レポート		10%		鑑賞レポート（週3曲以上）					
参考書・参考資料等					平常点	10%	積極的な作品発表等の取り組み			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR2MIN19 創作応用演習Ⅲ (電子キーボード)	出田 敬三・脇山 純・中村 真貴 他	複数	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	必修				A B C D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
電子オルガンの演奏技術、表現力を高めていくとともに、多様なジャンルの様々な作品を数多く経験していく中で、アイデンティティをもった自分自身の音楽表現を追求し、音楽を通して人間性豊かな情操を養う。編曲に力を入れる。 a. リダクション→原曲のイメージを忠実に電子オルガンに再現。 b. トランスクリプション→原曲の本質を損ねず、電子オルガン独自の作品に書き直す。 c. アレンジメント、パラフレーズ→編曲者の創造力によって原曲を自由に発展させる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 前期の授業計画 各学生の目標・課題 基礎知識の確認	シラバス確認	課題の習得・練習	9	ラインハルト、パイプオルガンの演奏即興、モチーフ、コード・サブドミナントの見抜き方③クリシェ、試験曲②アレンジ・音色を細かく設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	2	ラインハルト、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、コード・基本的な四声体の配置／初見奏、楽曲演奏1①譜読みと簡単な音色設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	10	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ、コード・カデンツの種類／即興演奏、試験曲③アレンジ・エフェクトなど細部の設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	3	ラインハルト、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、コード・ドミナントの解決／即興演奏楽曲演奏1②テクニック的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	11	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ、コード・初見アンサンブル、試験曲④アレンジ仕上げ・（テクニック面の確認）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	4	ラインハルト、即興、モチーフ、コード・サブドミナントの置き方／コード進行法・長調の副属七、楽曲演奏1③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	12	ラインハルト、パイプオルガン、コード・内部変換／リハーモナイズ①長調、試験曲⑤アレンジ仕上げ・音色・演奏（テクニック面の克服）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	5	ラインハルト、即興、モチーフ、コード・短調の副属七、楽曲演奏2①譜読み簡単な音色設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	13	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ、コード・リハーモナイズ②短調、試験曲⑥音色・演奏表現の向上（音色に伴う演奏法の確認）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	6	ラインハルト、即興、モチーフ、コード・副属七のまとめ、楽曲演奏2②テクニック的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	14	ラインハルト試験曲、パイプオルガン、即興、モチーフ、コード進行、試験曲⑦音色・演奏表現の向上（双方から演奏をまとめる）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	7	ラインハルト、即興、モチーフ、コード・ドミナント解決の定番／①循環コード、楽曲演奏2③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	15	ラインハルト・パイプオルガン試験曲のまとめ、即興、モチーフ、試験曲⑧試験曲の全体的な仕上げ、楽譜の確認	試験課題の練習	実技試験の準備		
	8	ラインハルト、即興、モチーフ、コード・各調のドミナント解決／②セクエンス、試験曲①アレンジ・大まかな音色を入力	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く						
教科書・テキスト等	ラインハルトオルガン教本50番(音楽之友社)、新総合音楽講座5「コード進行法」(ヤマハミュージックメディア)、エレクトーンメロディーズベストセレクションVol.1(改訂版)(ヤマハミュージックメディア)、その他、楽譜等をレッスン時に指定		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
				実技試験	80%	課題曲、自由曲、即興、モチーフ				
				課題 / レポート	10%	課題を習得・練習				
参考書・参考資料等	エレクトーンメロディーズベストセレクションVol.2(ヤマハミュージックメディア)			平常点(態度) 演奏活動	10%	授業中の指示に対する、正しい練習				

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR2MIN20 創作応用演習Ⅳ (電子キーボード)	出田 敬三・脇山 純・中村 真貴 他	複数	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	必修				A B C D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
電子オルガンの演奏技術、表現力を高めていくとともに、多様なジャンルの様々な作品を数多く経験していく中で、アイデンティティをもった自分自身の音楽表現を追求し、音楽を通して人間性豊かな情操を養う。編曲に力を入れる。 a. リダクション→原曲のイメージを忠実に電子オルガンに再現。 b. トランスクリプション→原曲の本質を損ねず、電子オルガン独自の作品に書き直す。 c. アレンジメント、パラフレーズ→編曲者の創造力によって原曲を自由に発展させる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 後期の授業計画、各学生の目標・課題 基礎知識の確認、コード・前期のまとめ	シラバス確認	課題の習得・練習	9	ラインハルト、パイプオルガンの演奏即興、モチーフ、コード・バスライン、試験曲②アレンジ・音色を細かく設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	2	ラインハルト、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、コード・前期内容の復習、楽曲演奏1①譜読みと簡単な音色設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	10	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ、コード・オブリガートとバスライン、試験曲③アレンジ・エフェクトなど細部の設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	3	ラインハルト、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、コード・トライアドから7thへ、楽曲演奏1②テクニック的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	11	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ、コード・合唱編曲①、試験曲④アレンジ仕上げ・（テクニック面の確認）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	4	ラインハルト、即興、モチーフ、コード・ソウ・ファイブの活用、楽曲演奏1③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	12	ラインハルト、パイプオルガン、コード・合唱編曲②リハーモナイズ、試験曲⑤アレンジ仕上げ・音色・演奏（テクニック面の克服）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	5	ラインハルト、即興、モチーフ、コード・9thとadd9、楽曲演奏2①譜読みと簡単な音色設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	13	ラインハルト、パイプオルガン、即興、モチーフ、コード・合唱編曲③三・四声部、試験曲⑥音色・演奏表現の向上（音色に伴う演奏法の確認）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	6	ラインハルト、即興、モチーフ、コード・ワンノート・サンバ、楽曲演奏2②テクニック的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	14	ラインハルト試験曲、パイプオルガン、即興、モチーフ、コード・合唱編曲④ピアノ伴奏（前奏、間奏）、試験曲⑦音色・演奏表現の向上	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	7	ラインハルト、即興、モチーフ、コード・カン（多声部の作成）、楽曲演奏2③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	15	ラインハルト・パイプオルガン試験曲のまとめ、即興、モチーフ、コード・合唱編曲⑤まとめ、試験曲⑧全体的な仕上げ、楽譜の確認	試験課題の練習	実技試験の準備		
	8	ラインハルト、即興、モチーフ、コード・カウンターメロディ、試験曲①アレンジ・大まかな音色を入力	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く						
教科書・テキスト等	ラインハルトオルガン教本50番(音楽之友社)、新総合音楽講座5「コード進行法」(ヤマハミュージックメディア)、エレクトーンメロディーズベストセレクションVol.1(改訂版)(ヤマハミュージックメディア)、その他、楽譜等をレッスン時に指定		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
				実技試験	80%	課題曲、自由曲、即興、モチーフ				
				課題 / レポート	10%	課題を習得・練習				
参考書・参考資料等	エレクトーンメロディーズベストセレクションVol.2(ヤマハミュージックメディア)			平常点(態度) 演奏活動	10%	授業中の指示に対する、正しい練習				

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR2MIN19 創作応用演習Ⅲ (ミュージックパフォーマンス)	出田 敬三 他	複数	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	必修				A B C
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
Ⅰ 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける。 Ⅱ 現代のニーズにあった演奏感覚を身に付ける。 Ⅲ 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲	創作応用演習Ⅲの課題曲選曲	課題①練習・基礎練習	9	課題③への取り組み② 分析（アナリーゼ）と演奏表現について	課題③アナリーゼ	課題③練習・基礎練習		
	2	課題①への取り組み① 分析（背景）と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習	10	課題③への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現（音響・サウンド）について 課題③のまとめ	課題③のまとめ	試験曲練習・基礎練習		
	3	課題①への取り組み② 分析（アナリーゼ）と演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習・基礎練習	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲家等について	楽曲アナリーゼと作曲家等について	試験曲練習・基礎練習		
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習・基礎練習	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ（構成）について	楽曲アナリーゼ（構成）について	試験曲練習・基礎練習		
	5	課題②への取り組み① 分析（背景・リズム）と演奏表現について	課題②背景について	課題②練習・基礎練習	13	試験曲への取り組み③ 表情（アーティキュレーション、ダイナミクス）について	アーティキュレーション、ダイナミクス）について	試験曲練習・基礎練習		
	6	課題②への取り組み② 分析（アナリーゼ）と演奏表現について	課題②アナリーゼ	課題②練習・基礎練習	14	試験曲への取り組み④ 表現（音響・サウンド）について	表現（音響・サウンド）について	試験曲練習・基礎練習		
	7	課題②への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現について 課題②のまとめ	課題②のまとめ	課題③練習・基礎練習	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習ⅢのまとめⅣの準備		
授業の概要	8	課題③への取り組み① 分析（背景・リズム）と演奏表現について	課題③背景について	課題③練習・基礎練習	備考 ※ミュージックパフォーマンスコース必修					
教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。			成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
					実技試験		80%	専門実技の習熟度 自己表現力		
					平常点		10%	事前・事後学習への取り組み		
					平常点		10%	演奏活動、行事への参加		
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR2MIN20 創作応用演習Ⅳ (ミュージックパフォーマンス)	出田 敬三 他	複数	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	必修				A B C
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
Ⅰ 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける。 Ⅱ 現代のニーズにあった演奏感覚を身に付ける。 Ⅲ 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 後期課題・試験曲選。	創作応用演習Ⅳの課題曲選曲	課題①練習・基礎練習	9	課題③への取り組み② 分析（アナリーゼ）と演奏表現について	課題③アナリーゼ	課題③練習・基礎練習		
	2	課題①への取り組み① 分析（背景）と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習	10	課題③への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現（音響・サウンド）について 課題③のまとめ	課題③のまとめ	試験曲練習・基礎練習		
	3	課題①への取り組み② 分析（アナリーゼ）と演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習・基礎練習	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲家等について	楽曲アナリーゼと作曲家等について	試験曲練習・基礎練習		
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習・基礎練習	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼと構成について	楽曲アナリーゼ（構成）について	試験曲練習・基礎練習		
	5	課題②への取り組み① 分析（背景・リズム）と演奏表現について	課題②背景について	課題②練習・基礎練習	13	試験曲への取り組み③ 表情（アーティキュレーション、ダイナミクス）について	アーティキュレーション、ダイナミクス）について	試験曲練習・基礎練習		
	6	課題②への取り組み② 分析（アナリーゼ）と演奏表現について	課題②アナリーゼ	課題②練習・基礎練習	14	試験曲への取り組み④ 表現（音響・サウンド）について	表現（音響・サウンド）について	試験曲練習・基礎練習		
	7	課題②への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題②のまとめ	課題②のまとめ	課題③練習・基礎練習	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習Ⅳのまとめ Vの準備		
授業の概要	8	課題③への取り組み① 分析（背景・リズム）と演奏表現について	課題③背景について	課題③練習・基礎練習	備考 ※ミュージックパフォーマンスコース必修					
教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。			成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
					実技試験		80%	専門実技の習熟度 自己表現力		
					平常点		10%	事前・事後学習への取り組み		
					平常点		10%	演奏活動、行事への参加		
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者		担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
SD2M1N27 サウンドデザインⅢ	出田 敬三・脇山 純・矢賀部 竜成 他		複数	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	必修				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画										
「良い音楽」を注意深く聞き、その音楽を再現出来るようになる。色々なポイントから「聴く」ことを学ぶ。 実際のコンサート等のイベントで機材の設置から、音響チェック、リハーサル、本番、後片付けをスタッフとして担当できる能力を身につける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	オリエンテーション LOGICでの数値入力 セットアップ関係の説明	春休みの課題	今までのデータをイベントリストを使って見る	9	打ち込みだからこそ出来る編曲法 入力課題に取り組み技法を学ぶ。 イントロを作る考え方。	試験曲（構成）	試験曲の構成をチェック			
	2	プラグインソフトの起動法他。	イベントリスト でノートをエ ディットする	イベントリスト の意味を理解す る	10	Aパート音色選びの考え方。Gate Timeの 重要性。	試験曲（音色）	試験曲の音色を チェック			
	3	音符入力法のバリエーション説明 音符数値入力の説明	イベントリス トでコントロー ルをエディット する	コントロールの 種類を確認する	11	Aパートのリビート時の変化、表情をつ ける入力方法を学ぶ。	試験曲（エフェ クト）	試験曲のエフェ クトのパラメー タをチェック			
	4	音符数値入力の説明続き	イベントリス トでピッチベンド をエディットす る	ピッチベンドの 数値を復習する	12	Bパートの入力 プラスのGate Timeの特徴など。 ドラムパターンへの入力	試験曲（楽譜）	試験曲を楽譜に する			
	5	入力における編集法の説明	試験曲に取り組 み始める（構 想）	試験曲に取り組 み始める（いつも の手順で仕上げる）	13	Cパート作成 メロディーにボルタメントを使う。音符 一つ一つにボルタメントの速度を変え調 節	楽譜を見やすく する	楽譜の修正			
	6	ドラムス・パーカッションの数値入力 の説明	試験曲（メロ ディー）	試験曲のメロ ディーの修正	14	他の学生のデータを聞いて、客観的な意 見を述べる	試験曲の仕上げ 試験曲の楽譜を 準備しておく	試験曲をまとめ る			
	7	音量バランス等のミキシング画面説明	試験曲（ハーモ ニー）	試験曲のハーモ ニーの修正	15	試験のシミュレーション	試験曲の仕上げ 試験曲の楽譜を 準備しておく	授業で指摘され た楽譜の修正、 試験曲の仕上げ			
8	コードとメロディーだけの課題曲を数 値入力でコンピュータに入れる。	試験曲（リス ム）	試験曲のリズ ムの修正	備考 ※サウンドデザインコース必修							
教科書・テキスト等	担当教員が適宜指示、配付			成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント			
					実技試験 課題／楽譜		80% 10%	課題曲、自由曲 課題の習得・練習			
参考書・参考資料等					平常点（態度）演奏活動		10%	授業中の指示に対する正しい打ち込み			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
SD2M1N28 サウンドデザインⅣ	出田 敬三・脇山 純・矢賀部 竜成 他	複数	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	必修				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
コードとメロディーの関係をしっかりと考えながら作曲する力を身につける。 自然な音楽的表現がコンピュータ（打ち込み）でも出来るようになる。 あるフレーズを人間が演奏した方が良いか、打ち込みの方が良いか、判断が出来るようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション コードとメロディーの関係を考える （最初はコード白玉とベース白玉とメロディーのみで進める）	夏休み中にコードとメロディーを考えておく	授業中の指導に沿いデータを修正	9	試験曲への取り組み	授業で指摘されたことを丁寧に修正	授業中の指導に沿い編曲に取り組む		
	2	コードとメロディーのバランス	コードトーンとノンコードトーンの響きをよく聞く	調性を感じる	10	演奏依頼する場合の指示 （アーティキュレーション、ダイナミックなど）	楽曲分析 指導に沿いデータを修正	楽曲を構成、コード進行などから分析する		
	3	音符入力法のバリエーション説明 音符数値入力の説明	ノートデータの修正	細かいニュアンスが出るよう工夫する	11	細かいニュアンスの入力を工夫	授業で指摘されたことを丁寧に修正	試験曲に取り組む		
	4	音符数値入力の説明続き	ピアノロールではなく数値で入力	数値入力の復習	12	機械的な打ち込みではない人間らしい表現	ヒューマナイズなどを試す	試験曲に取り組む		
授業の概要										
16小節ぐらいのオリジナルの曲を作曲指導する。その過程で作曲法の発想の仕方、考え方の方法を学ぶ。 作った曲に簡単なアレンジを施す。（ベース・アルペジオ系の伴奏・皮物のパーカッションぐらい） 最後にメロディーを人間が管楽器を演奏しているかのような自然なクレッシェンド、デクレッシェンドやアーティキュレーションのつけ方を学ぶ。	5	まず少ないシンプルなアレンジで、メロディーがよく聴こえるサウンドを作る	ベースとアルペジオ系の伴奏と皮目の打楽器のみで編曲	授業中の指導に沿い編曲に取り組む	13	ピッチベンドの特殊な入力の発想	ピッチベンドの進法の考え方の理解	ピッチベンドの復習		
	6	編集作業 メロディーを意識して関連を持たせる	ベース、コードなどがメロディーを支えるようにする	授業中の指導に沿い編曲に取り組む	14	最終調整	試験曲の仕上げ 試験曲の楽譜を準備しておく	試験曲に取り組む		
	7	編集作業 何度も聞き返しながら多くのアイデアを試す	データを修正 楽譜の作成	楽譜の作成	15	レコーディングで作品を仕上げる	試験曲の仕上げ 試験曲の楽譜を仕上げ	授業で指摘された楽譜を修正し、提出		
	8	編集作業 多くのアイデアから決める	データを修正 楽譜の作成	楽譜のレイアウトに気をつけて作成	備考 ※サウンドデザインコース必修					
教科書・テキスト等	担当教員が適宜指示、配付			成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
					実技試験 課題／楽譜		80% 10%	課題曲、自由曲 課題の習得・練習		
参考書・参考資料等					平常点（態度）演奏活動		10%	授業中の指示に対する正しい打ち込み		

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ME2M1N35 音楽教育演習Ⅲ	岩山 恵美子	単独	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	必修				A B C D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
創作指導についての基礎的な知識や技能を修得するとともに、音楽の諸要素の働きについての理解を深める。 創作の教材開発を通して、創作指導についての指導技術のみならず、指導者としての発想力、創造性を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	創作指導の意義	全学年の教科書教材を調べておく	創作指導の意義をまとめる	9	教材と指導構想の発表と振り返り	指導構想と工夫点をまとめておく	指導構想を修正する		
	2	創作表現の教育的価値	学習指導要領の創作の目標と指導内容を読んでおく	「創作表現の教育的価値」をレポートにまとめる	10	言葉の特徴を生かした旋律づくり 言葉のリズムと抑揚	同じ歌詞で作曲者が違う作品を探し、視聴しておく	身近な言葉の抑揚とリズムを調べる		
	3	身近な音の素材と即興演奏	身近な音素材を探し、持参する	つくった音の特徴を絵、図、ことばでまとめる	11	旋律創作の指導構想 俳句を素材に	素材とする俳句を準備する	指導構想を完成させる		
	4	イメージを生かした創作教材 小学校・中学校の教材内容の違い	配布資料（教材）を分析しておく	リズムを中心として、こどもの音楽的発達をまとめる	12	教材と指導構想の発表と振り返り	工夫点をまとめておく	創作の教材開発について自分の考えをまとめる		
授業の概要	5	言葉のリズムを生かした創作教材 先行実践「もしもし」と「はいはい」	配布資料（教材）を分析しておく	先行実践の学習活動の流れをまとめる	13	創作指導の工夫 ・教材性の検討	教材を準備する	教材に含まれる音楽的特徴をまとめる		
多様な発想をもとにした創作の指導について構想し、発表する。	6	言葉のリズムをもとにリズム創作	素材とする言葉を準備する	つくったリズムを記録する	14	創作指導の工夫 ・創造性を引き出す工夫	主な学習活動を考えておく	本時展開案を完成させる		
	7	先行実践「くいしんぼうのラップ」の授業づくりを探る	つくったリズムを叩いたり、歌ったりできるようにする	先行実践の学習活動の流れをまとめる	15	指導構想の発表と振り返り	模擬授業の準備をしておく	創作指導について自分の考えをまとめる		
	8	リズム創作の指導構想 リズムアンサンブルの工夫	複数のつくったリズムフレーズをデータ化しておく	つなぎ方や重ね方を工夫した構想を完成させる						
教科書・テキスト等	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年) (教育芸術社), 中学生の音楽1, 中学生の音楽2・3上, 中学生の音楽2・3下(教育芸術社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					レポート 作品・演奏 毎時間の振り返り	40% 40% 20%	内容の充実、論旨の一貫性、自分の考え 内容の深さ、演奏の正確さ 内容についての理解度、自分なりの考え			
参考書・参考資料等	学生制作の作品及び資料									

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ME2M1N36 音楽教育演習Ⅳ	岩山 恵美子	単独	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	必修				A B C E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
鑑賞指導についての基礎的な知識を修得するとともに日本の伝統音楽についての理解を深める。 教材研究や模擬授業を通して、鑑賞と表現の一体化や言語活動を重視した授業づくりについて理解を深める。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	鑑賞指導の意義と内容	鑑賞領域の目標と内容を読んでおく	鑑賞指導の意義をまとめる	9	本曲「巢鶴鈴慕」の教材研究	本曲「巢鶴鈴慕」を視聴し、気づきをまとめておく	「巢鶴鈴慕」の音楽的特徴をまとめる		
	2	日本音楽の特徴	日本音楽の特徴を調べておく	「日本音楽の特徴」をレポートにまとめる	10	雅楽「越天楽」の教材研究	雅楽「越天楽」を視聴し、気づきをまとめておく	「越天楽」の音楽的特徴をまとめる		
	3	日本音楽導入の背景	学校教育に日本音楽を取り入れたきっかけを調べておく	日本と欧米の音楽の発展の違いをまとめる	11	選択した教材曲を使った鑑賞の指導構想	指導したい内容について考えておく	ICTを活用した展開案を考え、まとめておく		
	4	日本音楽導入の教育的意義	学習指導要領での日本音楽の取り扱いについて調べる	「日本音楽導入の意義」をレポートにまとめる	12	題材の指導計画の作成 ・第1時の内容検討	教材曲との出合わせ方を再検討しておく	第1時の指導計画を整理する		
授業の概要	5	和楽器について調べる 楽器の歴史、構造、奏法、主な楽曲など	知っている和楽器についてレポートを書く	選択した楽器について詳しく調べ、資料を作る	13	題材の指導計画の作成 ・第2時の内容検討	聴き深める指導を再検討しておく	第2時の指導計画を整理する		
模擬授業を通して、鑑賞の授業づくりについて自分なりの考えをもつとともに、生徒に分かりやすい鑑賞資料を作る。	6	箏・尺八の特徴 (プレゼンテーション)	発表の準備をしておく	「箏・尺八について」のレポートを修正・加筆する	14	題材の指導計画の作成 ・第3時の内容検討	題材のまとめを再検討しておく	題材指導計画を完成させ、本時展開案を作成する		
	7	雅楽の楽器の特徴 (プレゼンテーション)	発表の準備をしておく	「雅楽の楽器について」のレポートを修正・加筆する	15	模擬授業と意見交換	模擬授業の準備をしておく	意見をもとに本時展開案を修正する。		
	8	箏曲「六段の調べ」の教材研究	箏曲「六段の調べ」を視聴し、気づきをまとめておく	「六段の調べ」の音楽的特徴をまとめる						
教科書・テキスト等	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年) (教育芸術社), 中学生の音楽1, 中学生の音楽2・3上, 中学生の音楽2・3下(教育芸術社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					レポート・指導計画案 レジュメ・本時展開案 毎時間の振り返り	40% 40% 20%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え 内容の深さ、 内容についての理解度、自分なりの考え			
参考書・参考資料等	学生制作の資料									

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MT2M1T43 音楽療法演習Ⅲ	村橋 和子・青 拓美	オムニバス	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	必修			必修	A B C D F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽療法士が音楽を媒体として精神科領域で治療に関わる意味を多角的・理論的に検討することを目的とし、それを言語化し他者に伝えることができる。 技法においては、精神科領域における対象者へ有効に働きかけるための臨床音楽技法を身につけることを目的とし、現場ですぐに使える楽曲を10曲以上暗譜で弾き歌いできる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 課題曲の発表	シラバスの熟読	課題曲の練習	9	・精神障害と音楽療法 ・臨床場面における弾き歌い(昭和60年代歌謡曲)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
	2	・精神科リハビリテーションについて ・臨床場面における弾き歌い(童謡・唱歌)	プリントの熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	10	・プログラムについて ・臨床場面における弾き歌い(平成時代歌謡曲)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
	3	・精神科作業療法について(成り立ち) ・臨床場面における弾き歌い(学校教育音楽)	プリントの熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	11	・評価と記録 ・臨床場面における弾き歌い(平成時代歌謡曲)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
	4	・精神福祉について ・臨床場面における弾き歌い(昭和40年以前の歌謡曲)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	12	・神経学的音楽療法 ・臨床場面における弾き歌い(試験曲)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
授業の概要	5	・精神科作業療法としての音楽療法・弾き歌い(昭和40年代歌謡曲)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	13	・精神科領域の事例研究 ・精神科領域の楽曲(試験曲)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	事例についてまとめ。 課題曲の練習		
精神科領域に関する各論および技法を扱う。各論では、精神科領域対象者野の心身の疾病や障害を把握する。 また技法においては、精神科領域における対象者へ有効に働きかけるための臨床音楽技法(主に歌唱)を学ぶ。	6	・精神科作業療法としての音楽療法の歴史 ・臨床場面における弾き歌い(昭和40～50年代歌謡曲)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	14	音楽療法における声の使い方(時期未定) ※青拓美講師による特別講座	レジュメを熟読し、 用語を調べる	レッスンで学んだことをまとめる		
	7	・治療構造について ・臨床場面における弾き歌い(昭和50年代歌謡曲)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問) ・夏休みの課題提示。	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習		
	8	・精神科での音楽療法の効用 ・臨床場面における弾き歌い(昭和50～60年代歌謡曲)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	備考					
教科書・テキスト等	ひとと音・音楽 療法として音楽を使う(青海社) ケースに学ぶ音楽療法Ⅱ(岩崎学術出版)			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					平常点(態度・行動観察) レジュメ作成と発表 期末テスト	10% 30% 60%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実 課題への取り組み、内容の充実 弾き歌い、及び口頭試問の点数			
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MT2M1T44 音楽療法演習Ⅳ	村橋和子・土野研治	オムニバス	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	必修			必修	A B C D F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽療法士が音楽を媒体として精神科領域で治療に関わる意味を多角的・理論的に検討することを目的とし、他職種へ音楽療法の意義を言語で伝えることができる。 技法においては、精神科領域における対象者へ有効に働きかけるための臨床音楽技法を身につけることを目的とした弾き歌い曲を10曲以上暗譜で演奏できる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 課題曲の発表	シラバスの熟読	課題曲の練習	9	・人格障害について ・臨床場面における弾き歌い(シャンソン)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
	2	・精神科音楽療法における対象と音楽 ・臨床場面における伴奏法について	プリントの熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	10	・人格障害と音楽療法 ・臨床場面における弾き歌い(英語の楽曲)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
	3	・統合失調症について ・臨床における歌唱について	プリントの熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	11	・高齢期の精神障害と音楽療法 ・臨床場面における弾き歌い(試験曲)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
	4	・統合失調症と音楽療法 ・臨床場面における弾き歌い(昭和時代の歌謡曲①)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	12	・児童期の精神障害について ・臨床場面における弾き歌い(試験曲)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
授業の概要	5	・気分障害について ・臨床場面における弾き歌い(昭和時代の歌謡曲②)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	13	音楽療法の実際(時期未定) ※土野研治客員教授による特別講座	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	内容についてまとめる		
演習Ⅲに引き続き、各論では、精神科領域の基礎知識について学び、加えて、精神科領域対象者野の心身の疾病や障害を把握する。 技法においては、精神科領域における対象者へ有効に働きかけるための臨床音楽技法(主に伴奏法)を学ぶ。	6	・気分障害と音楽療法 ・臨床場面における弾き歌い(平成時代の歌謡曲①)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	14	音楽療法の実際(時期未定) ※土野研治客員教授による特別講座	レジュメを熟読し、 用語を調べる	音楽の有効性について考える		
	7	・不安障害について ・臨床場面における弾き歌い(平成時代の歌謡曲②)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問) ・夏休みの課題提示。	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習		
	8	・不安障害と音楽療法 ・臨床場面における弾き歌い(ジャズ)	教科書の熟読、 用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	備考 ※音楽療法コース必修					
教科書・テキスト等	精神障害と作業療法(三輪書店)			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					平常点(態度・行動観察) レジュメ作成と発表 期末試験口	10% 30% 60%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実 課題への取り組み、内容の充実 弾き歌い、及び口頭試問の点数			
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者		担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NP2M4D03 ピアノⅢ	川口 みさき 他		クラス分け	1 単位	音楽学科 2 年次	前期	※	選択必修		選択必修	D E
授業のテーマ及び到達目標		授 業 計 画									
各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	オリエンテーション（レッスンについての説明・楽曲選曲）	シラバスを読み、授業内容を確認する	指示された事柄について練習を進める	9	試験曲の分析・練習方法③（強弱法を中心に）	楽譜の強弱を丁寧に見直す	指示された事柄について練習を進める			
	2	スケール・練習曲・古典派の作品等を通してアーティキュレーションについて学ぶ	課題曲を読譜する	楽譜の指示を見直す	10	試験曲の構成・表現の修得①（運指法を中心に）	楽譜の運指を見直す	指示された指使いを復習する			
	3	スケール・練習曲・古典派の作品等を通して演奏と呼吸、抑揚について学ぶ	呼吸と演奏法について考える	フレーズの構造をまとめる	11	試験曲の構成・表現の修得②（和声を中心に）	曲を要約し、和音で練習してみる	ハーモニーのつながりを確認する			
	4	スケール・練習曲・古典派・ロマン派等の作品等を通して演奏と呼吸、抑揚について学ぶ	課題曲の指使いを見直す	時代による表現の特徴をまとめる	12	試験曲の構成・表現の修得③（形式を中心に）	曲の形式を調べる	曲のアナリゼをまとめる			
	5	スケール・練習曲・古典派の作品等を通して楽曲の形式、和声構造について学ぶ	課題曲の形式を調べる	曲のハーモニーをよく味わい、構造を考える	13	試験曲の構成・表現の修得④（奏法を中心に）	暗譜で演奏できるように準備する	身体の使い方等を見直す			
	6	試験曲の決定（前回までの学びを振り返る）	試験候補曲の準備をする	課題曲の技術・表現に必要な要素を考える	14	試験曲の構成・表現の修得⑤（表現法を中心に）	確実な暗譜を練習する	必要な表現を確認する			
	7	試験曲の分析・練習方法①（時代背景を中心に）	曲の背景を調べる	作曲家の特徴を考える	15	試験曲の構成・表現の完成 後期の課題決め	後期の候補曲を準備する	学びの総まとめをする			
	8	試験曲の分析・練習方法②（様式を中心に）	曲の様式について調べる	曲の時代様式を復習する	備考 ※声楽・管弦打楽・作曲・電子キーボード・音楽教育・音楽療法コース必修						
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験		100%	課題曲の完成度			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NP2M4D04 ピアノⅣ	川口 みさき 他	クラス分け	1 単位	音楽学科 2 年次	後期	※	選択必修		選択必修	D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション、スケール・練習曲等を通してカデンツを確認する	課題曲を準備する	指示された事柄について練習を進める	9	試験曲の分析・練習方法（形式・和声を中心に）	前回のペダリングを和声表現に活かす	曲の形式についてまとめる		
	2	スケール・練習曲・ロマン派等の作品を通してより合理的な運指を考察する（1）	曲の運指を見直す	指示された指使いを復習する	10	試験曲の構成・表現の修得（運指を中心に）	楽譜に指示された運指で練習する	指示のあった運指を確認する		
	3	スケール・練習曲・ロマン派等の作品を通してより合理的な運指を考察する（2）	スケール課題の調を決定する	指示された事柄について練習を進める	11	試験曲の構成・表現の修得（強弱法を中心に）	楽譜に指示された強弱を守り練習する	強弱の不確かな部分がないかチェックする		
	4	スケール・練習曲・ロマン派等の作品を通してアナリゼをどう表現に結びつけるか考察する	曲の分析を試みる	分析を理解し、表現につなげる	12	試験曲の構成・表現の修得（奏法を中心に）	身体の使い方を見直す	適確な表現法を試みる		
	5	スケール・練習曲・ロマン派等の作品を通して時代様式をどう表現に結びつけるか考察する	曲の時代背景を調べる	時代様式をまとめる	13	試験曲の構成・表現の修得（音色を中心に）	曲の内容をまとめる	技術および表現上の課題解決に取り組む		
	6	試験曲の決定（前回までの学びを振り返る）	課題候補曲を準備する	指示された事柄について練習を進める	14	暗譜の確認	暗譜で安定した演奏が出来るよう練習する	暗譜の不確かな場所がなかったか確認しておく		
	7	試験曲の分析・練習方法（音の方向性を考察する）	曲の旋律のみ取り出して音楽的に練習する	旋律の魅力なり奏法を考察する	15	試験曲の構成・表現の完成 後期の課題決め	前回までに学んだ内容を復習する	学びの総まとめをする		
	8	試験曲の分析・練習方法（ペダリングについて）	指示されたペダリングを試みる	ペダルを踏むタイミングを正確に認識する	備考 ※声楽・管弦打楽・作曲・電子キーボード・音楽教育・音楽療法コース必修					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績 評価 基準	評価方法		割合（％）	評価のポイント		
参考書・参考資料等					実技試験		100%	課題曲の完成度		

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NV2M4C11 声楽Ⅲ	桑原 理恵 他	クラス分け	1 単位	音楽学科 2 年次	前期	必修				BDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
呼吸法や発声など声楽の基礎技術をさらに深める。イタリア語・日本語の発音の仕方を習得し、歌詞の内容を表現した演奏ができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	授業内容、課題曲について確認する	9	各自課題曲 8 (歌詞の意味と表現)	歌詞の意味を理解し表現できるように練習する	レッスン内容をまとめる		
	2	各自課題曲 7 (身体と声の関係)	身体を解放することを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	10	各自課題曲 9 (母音の響きと呼吸法)	スムーズな息の流れで歌唱できるように練習する	レッスン内容をまとめる		
	3	各自課題曲 7 (声の響き)	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	11	各自課題曲 9 (発音と言葉の響き)	どの言葉も豊かな響き歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる		
	4	各自課題曲 7 (息の流れと身体の支え)	息の流れと体の支えを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	12	各自課題曲 9 (言葉と旋律の関係)	歌詞の意味を理解し表現できるように練習する	レッスン内容をまとめる		
	5	各自課題曲 7 (発声と発音)	発音と発声を意識して練習をする	レッスン内容をまとめる	13	実技試験に向けたまとめ 1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する		
	6	各自課題曲 8 (発音とリズム)	正しい発音で歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	14	実技試験に向けたまとめ 2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する		
	7	各自課題曲 8 (母音の響き)	豊かな母音の響きで歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	15	実技試験に向けたまとめ 3 (表現法)	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる		
	8	各自課題曲 8 (言葉の響き)	どの言葉も豊かな響き歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	備考 ※教職課程必修（声楽コースを除く）※サウンドデザイン、ミュージックパフォーマンスコースは選択科目					
授業の概要										
声楽 1・Ⅱ で習得したものを基礎にさまざまな歌曲を学ぶ。作品に対しては、詩の内容を理解し、その芸術性に触れていく。＊試験曲はイタリア古典歌曲集、イタリアロマン派歌曲集、日本歌曲より選曲する										
教科書・テキスト等	楽譜は授業時に指定			成績評価基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等					実技試験		100%	正確な発音と音程、曲の表現		

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NV2M4C12 声楽Ⅳ	桑原 理恵 他	クラス分け	1 単位	音楽学科 2 年次	後期	必修				BDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
呼吸法や発声など声楽の基礎技術をさらに深める。イタリア語・日本語に加えてドイツ語の発音の仕方を習得し、歌詞の内容を表現した演奏ができる。教職履修学生は課題曲を暗譜し、はっきりとした発音と正しい音程で表情豊かに歌唱できるようにする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	授業内容、課題曲について確認する	9	各自課題曲 1 1 (言葉と表現)	歌詞の意味を理解して歌う	レッスン内容をまとめる		
	2	各自課題曲 1 0 (発声と呼吸法)	課題曲を原語で練習する	レッスン内容をまとめる	10	各自課題曲 1 2 (歌詞と発語)	発音に気を付けて課題曲を練習する	レッスン内容をまとめる		
	3	各自課題曲 1 0 (母音の響き)	母音の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	11	各自課題曲 1 2 (テンポ・強弱などの表現)	楽譜に書かれている表示記号を表現して歌う	レッスン内容をまとめる		
	4	各自課題曲 1 0 (言葉と響き)	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	12	各自課題曲 1 2 (伴奏と旋律)	伴奏と歌との関わりを理解して歌う	レッスン内容をまとめる		
授業の概要										
声楽Ⅰ～Ⅲで習得したものを基礎にしてさまざまな歌曲を学ぶ。作品に対しては、詩の内容を理解し、その芸術性に触れていく。＊試験曲はイタリア古典歌曲集、イタリアロマン派歌曲集、日本歌曲、ドイツ歌曲より選曲する。 ※教職課程履修学生は「夏の思い出」「花の街」「早春賦」を課題曲とし、暗譜歌唱する。	5	各自課題曲 1 0 (旋律の表現)	フレーズのまとまりを感じて歌う練習をする	レッスン内容をまとめる	13	実技試験に向けたまとめ 1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する		
	6	各自課題曲 1 1 (言葉の発音と母音の響き)	母音の響きに気を付けて原語で練習する	レッスン内容をまとめる	14	実技試験に向けたまとめ 2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する		
	7	各自課題曲 1 1 (言葉と旋律)	原語を旋律に乗せて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	15	実技試験に向けたまとめ 3 (表現法)	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる		
	8	各自課題曲 1 1 (旋律と呼吸)	フレーズと呼吸の間わりを感じて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	備考 ※教職課程必修（声楽コースを除く）※サウンドデザイン、ミュージックパフォーマンスコースは選択科目					
教科書・テキスト等	楽譜は授業時に指定			成績 評価 基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント		
					実技試験		100%	正確な発音と音程、曲の表現		
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者		担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NC2M3T17 演奏実技Ⅲ	実技系教員（主に管弦打）		クラス分け	1 単位	音楽学科 2 年次	前期	※				A B D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画										
専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	ガイダンス（年間計画等）	事前に準備しておく	次のレッスンへの準備	9	ソロ曲の選定	希望する曲を探しておく	学修内容の復習			
	2	エチュードの選定（内容の説明 他）	事前に準備しておく	学修内容の復習	10	ソロ曲B-1	事前練習	学修内容の復習			
	3	エチュードB-1	事前練習	学修内容の復習	11	ソロ曲B-2	事前練習	学修内容の復習			
	4	エチュードB-2	事前練習	学修内容の復習	12	ソロ曲B-3（粗通し）	事前練習	学修内容の復習			
	5	エチュードB-3	事前練習	学修内容の復習	13	ソロ曲B-4（テンポとアーティキュレーションの確認）	事前練習	学修内容の復習			
	6	エチュードB-4	事前練習	学修内容の復習	14	ソロ曲B-5（音楽的表現を伴った伴奏合わせ）	事前練習	学修内容の復習			
	7	エチュードB-5	事前練習	学修内容の復習	15	総まとめ（人前での披露演奏）	事前練習	前期の反省 他			
授業の概要		8	エチュードB-6	事前練習	学修内容の復習	備考 ※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定する			成績 評価 基準	評価方法		割合（％）	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 演奏	30% 70%	授業態度・積極的な姿勢 学修課題を理解し、演奏に活かしているか				

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NC2M3T18 演奏実技Ⅳ	実技系教員（主に管弦打）	クラス分け	1 単位	音楽学科 2 年次	後期	※				A B D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の反省と確認	事前に準備しておく	次のレッスンへの準備	9	ソロ曲の選定	希望する曲を探しておく	学修内容の復習		
	2	エチュードの選定（内容の説明 他）	事前に準備しておく	学修内容の復習	10	ソロ曲C-1	事前練習	学修内容の復習		
	3	エチュードC-1	事前練習	学修内容の復習	11	ソロ曲C-2	事前練習	学修内容の復習		
	4	エチュードC-2	事前練習	学修内容の復習	12	ソロ曲C-3（粗通し）	事前練習	学修内容の復習		
授業の概要										
原則として、以前経験したことのある楽器について、専門（例えば管弦打楽器）に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約（役30分）以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる。	5	エチュードC-3	事前練習	学修内容の復習	13	ソロ曲C-4（テンポとアーティキュレーションの確認）	事前練習	学修内容の復習		
	6	エチュードC-4	事前練習	学修内容の復習	14	ソロ曲C-5（音楽的表現を伴った伴奏合わせ）	事前練習	学修内容の復習		
	7	エチュードC-5	事前練習	学修内容の復習	15	総まとめ（人前での披露演奏）	事前練習	後期の反省 他		
	8	エチュードC-6	事前練習	学修内容の復習	備考 ※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定する			成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
					平常点 演奏	30% 70%	授業態度・積極的な姿勢 学修課題を理解し、演奏に活かしているか			
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M4C41 伴奏法ⅠA	眞鍋 協子	単独	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	※	必修		選択必修	D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
美しい音色とレガート奏法を身につける。伴奏パートに想像力を持たせ、より多彩な響きを得るための技術を習得する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容のオリエンテーション（一年間の授業計画と伴奏への認識について）	シラバスを読み、授業の内容を確認する	指定された楽譜を準備しておく	9	滝廉太郎の作品を通して、作品の性格を弾き分ける技術を探る	教材曲について調べ、練習する	各教材曲の課題をまとめておく		
	2	中田喜直、山田耕筰の作品を通して、歌詞の内容とピアノパートとの関連性を探る	教材曲について調べ、練習する	各教材曲の課題をまとめておく	10	日本の抒情を表現するテクニックを学ぶ	美しい音色、構成感について考えておく	重音演奏の復習および練習		
	3	楽譜を正確に読み、曲にふさわしいタッチ、フレーズ感を探る	指示された内容まで到達するよう練習する	技術および表現法の改善に取り組む	11	重音を含んだ間奏を美しく弾く	指示された内容まで到達するよう練習する	強弱法を振り返り復習しておく		
	4	楽曲の素朴な味わいを大切にしながらドラマを作る（品のある音で）	美しい音色、構成感について考えておく	指導された事柄を復習しておく	12	有節歌曲の弾き分け方を学ぶ（日本語のニュアンスに応じて）	教材曲について調べ、練習する	技術および表現法の改善に取り組む		
授業の概要										
アンサンブルとしてのピアノ奏法を学ぶ。呼吸、フレージング、音色を研究する。	5	成田為三の作品を通して、歌のパートと伴奏パートの意味するものを考察する	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容と伴奏の関連性を考えておく	13	團伊玖磨の作品を通して言葉とメロディー、伴奏に求められるものを考察する	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容と伴奏の関連性を考えておく		
	6	細かい音がうるさく聴こえないよう、バランスよく表現する	アルベジオ奏法を練習する	指導された事柄を復習しておく	14	美しい音色、暖かい響きを追求する	指示された内容まで到達するよう練習する	前回まで学んだ教材曲を全曲復習する		
	7	中田章の作品を歌のパート、メロディーを感じて演奏する	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容と伴奏の関連性を考えておく	15	まとめ	曲の内容をまとめる	授業で学んだことをまとめる		
	8	左手のアルベジオ奏法をマスターする	指示された内容まで到達するよう練習する	技術および表現法の改善に取り組む	備考 ※ピアノコース学生対象					
教科書・テキスト等	中学生の音楽			成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
					定期試験 平常点（態度、行動観察）	50% 50%	実技発表への取り組み、成果 授業中の積極的な参加、練習状況			
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M4C41 伴奏法ⅠB	眞鍋 協子	単独	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	※	必修		選択必修	D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
課題に取り組むことを通し、ピアノ伴奏の基礎技術を向上させ、教職現場で必要な音楽性の基礎を身につける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容のオリエンテーション（一年間の授業計画と伴奏への認識について）	シラバスを読み、授業の概要を確認する	指定された楽譜を準備しておく	9	歌のパートとの音量のバランスについて考察する	歌のパートとのバランスに注意し練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく		
	2	中田喜直の作品を題材にして、歌詞の情景と伴奏型の関連性を学ぶ	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容を理解しておく	10	中田章の作品を題材にして、暖かい響き・美しい音色を追求する	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容を理解しておく		
	3	美しい音色を奏でるための姿勢、打鍵法について	強弱法を活かし、練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく	11	詩の内容と音楽がどう結びついているか研究する	曲の内容と音色に留意し、練習する	情景と音色の結びつきについてまとめる		
	4	山田耕筰の作品を題材にして、ピアノのハーモニーの中にある歌を感じる	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容を理解しておく	12	歌に寄り添った伴奏を目指す	曲の内容と音色に留意し、練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく		
	5	ペダルを使い、音と音をなめらかにつなぐ奏法を学ぶ	重音のバランスに注意し、練習する	呼吸、ペダルのタイミングを確認しておく	13	どんな技術が必要か、どんな感性を養うべきかを、もう一度よく考える	前回までに学んだすべての教材曲を復習する	授業の復習および練習		
	6	楽譜を正確に読み、曲にふさわしいタッチ・フレーズ感を探る	曲の内容と音色に留意し、練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく	14	前期に学修した曲を、総合的に深く理解し、演奏できるようにする	前回までに学んだすべての教材曲を復習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく		
	7	成田為三の作品を題材にして、伴奏型の意図するものを想像する	教材曲について調べ、練習する	左手の連指を確認し、復習しておく	15	まとめ	前回までに学んだすべての教材曲を復習する	授業で学んだことをまとめる		
	8	分散和音を例にし、連指の重要性を学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	情景と音色の結びつきについてまとめる	備考 ※ピアノコース以外の学生対象					
教科書・テキスト等	中学生の音楽			成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
					定期試験 平常点（態度・行動観察）		50% 50%	実技発表への取り組み、成果 授業中の積極的な参加、練習状況		
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M4C42 伴奏法ⅡA	眞鍋 協子	単独	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	※	必修		選択必修	D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
主にドイツリートを題材に、アンサンブルピアニストとしての表現、テクニックを身につける。その中で学んだことを活かし、アンサンブルだけに留まらず、一人の演奏者、表現者としての能力をレベルアップしていく。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容のオリエンテーション、アンサンブルにおけるピアノの役割とは何か。	シラバスを読み、授業の概要を確認する	指定された楽譜	9	共演者と共にレッスンし、アンサンブルやバランス等を確認する	表現についての考えをまとめておく	確認事項を整理し復習しておく		
	2	W.A. モーツァルトの作品を通して、音楽だけでなく言葉の意味、発音の大切さを感じ理解する	教材曲について調べ、練習する	装飾音の解釈をまとめておく	10	R. シューマンの作品を通して、弾くことの難しさだけでなく、詩の内容と音楽がどう結びついているか研究する	教材曲について調べ、練習する	詩の内容を復習する		
	3	詩とメロディーの関連性について考察する	歌パートを理解し練習する	曲の情景を表現することについて復習しておく	11	時代の経過とともに、音楽表現がどれだけ豊かになったか研究する	ロマン派の特徴についてまとめておく	曲の構成について復習する		
	4	共演者と共にレッスンし、音型によってどのような世界を作り出していくか研究する	音色・ハーモニー・リズムを丁寧に考察しておく	様式感と表現の関連性について復習しておく	12	共演者と共にレッスンし、シューマン独特の歌心をどう表現していくか研究する	歌パートを理解し練習する	曲の心情を表現することについて復習しておく		
授業の概要										
楽譜から、作曲家が表現したかったことを読み解いていく。アンサンブルピアニストとして必要な呼吸感、言葉と音楽の関連性、音色やドラマ作り等を指導する。	5	共演者と共にレッスンし、アンサンブルやバランス等を確認する	歌に寄り添った伴奏について考えておく	確認事項を整理し復習しておく	13	共演者と共にレッスンし、アンサンブルやバランス等を確認する	表現についての考えをまとめておく	確認事項を整理し復習しておく		
	6	F. シューベルトの作品を通して、言葉と音楽の関連性を考察する	教材曲について調べ、練習する	正確な読譜について復習しておく	14	どんな技術が必要か、どんな感性を養うべきかを振り返って考察する	前回まで学んだ教材曲全曲を復習する	各様式を踏まえ練習しておく		
	7	情景を描写する伴奏パートから、繊細な音の表現を研究する	伴奏パートのリズムについて理解しておく	リズムとハーモニーの関連を理解しておく	15	まとめ	前回まで学んだ教材曲全曲を復習する	授業で学んだことをまとめる		
	8	共演者と共にレッスンし、テンポコントロールの重要性を認識し・息づくフレーズ感を創る	有節歌曲の表現上の工夫について考えておく	曲の構成について復習する	備考 ※ピアノコース学生対象					
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定			成績評価基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント		
					定期試験 平常点（態度、行動観察）		50% 50%	実技発表への取り組み、成果 授業中の積極的な参加、練習状況		
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M4C42 伴奏法ⅡB	眞鍋 協子	単独	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	※	必修		選択必修	D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
課題に取り組むことを通し、ピアノの演奏技術および伴奏の表現技術を向上させ、「伴奏法Ⅰ」で修得したものよりもより高いレベルの曲を演奏することができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の学習の成果と反省をふまえ、課題を見直す	シラバスを読み、授業の概要を確認する	指定された楽譜を準備しておく	9	美しいメロディーを美しく演奏する、運指の重要性を認識する	2拍子のリズムを正しく練習する	運指に注意し、復習しておく		
	2	滝廉太郎の作品の概要、および時代背景を探る	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容を理解しておく	10	ピアノのハーモニーの中に歌があることを感じる	フレーズを意識し、練習する	歌詞の情景を伝えるハーモニーを復習しておく		
	3	左手の多声部の奏法を中心に、美しいバランスを学ぶ	指使いに留意し練習する	指導された事柄を復習しておく	11	歌曲伴奏の大切なポイントについて理解する・歌詞の意味を理解する	教材曲について調べ、練習する	指導された事柄を復習しておく		
	4	しみじみとした味わいを美しい音で表現する	歌詞の内容と音色の関連性に留意し、練習する	指導された事柄を復習しておく	12	歌のパート、メロディーを感じて演奏してみる	歌のパートとのバランスに留意し、練習する	指導された事柄を復習しておく		
授業の概要										
中学校の教職教材に加え、歌曲を課題とし、ピアノ伴奏の要点、役割、方法等を研究する。音楽を学ぶ上で欠かせない伴奏を通して、相手との呼吸を合わせる意識や、音色や音量のバランス感覚を育てる。	5	滝廉太郎の作品から、右手重音の奏法を中心に技術を追求する	教材曲について調べ、練習する	重音の技術についてまとめる	13	歌曲伴奏に必要な表現法を学ぶとともに、歌に寄り添った伴奏について考察する	バランスに注意し、練習する	指導された事柄を復習しておく		
	6	歌詞の情景と音色について考察する	バスパートのハーモニーをつかんで練習する	ポリフォニーの演奏法を復習しておく	14	どんな技術が必要か、どんな感性を養うべきかをもう一度考察する	前回まで学んだ教材曲を復習する	各教材曲の課題をもう一度熟考し練習する		
	7	左手の音楽的な表現法、深い表現を目指す	歌のパートとのバランスに留意し、練習する	指導された事柄を復習しておく	15	まとめ	前回まで学んだ教材曲を復習する	授業で学んだことをまとめる		
	8	團伊玖磨の作品を題材とし、ピアノパートの情景との結びつきを探る	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容を理解しておく	備考 ※ピアノコース以外の学生対象					
教科書・テキスト等	中学生の音楽			成績評価基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント		
					定期試験 平常点（態度・行動観察）		50% 50%	実技発表への取り組み、成果 授業中の積極的な参加、練習状況		
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者		担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M1C03 合唱Ⅲ	菊村 隆史		単独	2 単位	音楽学科・こども学科 2 年次	前期	必修				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標		授 業 計 画									
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	ガイダンス 授業計画発表・学修内容の説明・パート編成分け	シラバスを確認	計画を立てる	9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲 A の実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習			
	2	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習①呼吸のコントロールと発声のメカニズムについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲 A の実習、発語（ディクション）について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習			
	3	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習②安定感のあるブレスに立脚した声について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲 B の実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習			
	4	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習③様々なパッセージを歌唱し自らの声と音域について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲 B の実習、発語（ディクション）について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習			
	5	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習① 移動ド唱法とソルミゼーションその 1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習			
	6	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習② 移動ド唱法とソルミゼーションその 2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習			
	7	アンサンブル・テクニックの修得とその応用①単旋律聖歌、オルガスム等を用いて完全 4 度または完全 5 度の響きを味わい音程感覚を養う。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	前期の総括	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習			
8	アンサンブル・テクニックの修得とその応用②カノン、オスティナート、2 ～ 3 声の楽曲、様々なコーラス・アンサンブルの研究をする。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習								
教科書・テキスト等	必要に応じて配付、または個人購入して使用する、詳細は授業時に指示する。			成績評価基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント			
					課題演奏 課題 / レポート		50% 30%	演奏に学修課題を活かしている 合唱曲、アンサンブルについての考察			
参考書・参考資料等					平常点（態度・行動観察）		20%	授業態度、積極的な取り組み			

科 目 名	担 当 者		担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M1C04 合唱Ⅳ	菊村 隆史・桑原 理恵・村橋 和子		複数	2 単位	音楽学科・こども学科 2 年次	後期	必修				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標		授 業 計 画									
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和声的感覚を養うトレーニングに取り組む	シラバスを確認	計画を立てる	9	楽曲演奏と実習⑧ 組曲第 8 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習			
	2	楽曲演奏と実習① 組曲第 1 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と実習⑨ 組曲第 9 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習			
	3	楽曲演奏と実習② 組曲第 2 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その 1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習			
	4	楽曲演奏と実習③ 組曲第 3 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究⑪ 全曲通し練習その 2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習			
授業の概要											
コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む。	5	楽曲演奏と実習④ 組曲第 4 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	リハーサル	既習事項のまとめと練習	課題に基づき復習・反復練習			
	6	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第 5 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	演奏会	既習事項のまとめと練習	課題に基づき復習・反復練習			
	7	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第 6 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	総括と反省	既習事項のまとめと練習	合唱音楽についてまとめる			
	8	楽曲演奏と実習⑦ 組曲第 7 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習							
教科書・テキスト等	必要に応じて配布、または個人購入して使用する、詳細は授業時に指示する。			成績評価基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント			
					課題演奏		50%	演奏に学修課題を活かしている			
					課題 / レポート		30%	合唱曲、アンサンブルについての考察			
参考書・参考資料等					平常点（態度・行動観察）		20%	授業態度、積極的な取り組み			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M4C11 合奏Ⅲ	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	必修			選択必修	A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
指揮者がいる場合は指揮者、いない場合はコンサートマスター等を通じてコミュニケーションやチームワークを大事にしながら、より深い音楽を目指す。更に演奏会を企画・運営をする場合もあり、出演することと同時に莫方の経験もしながら学び、将来的に指導者としての活動やプロデュースする力も付けていくことができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション（授業計画等）	シラバスを確認	次の授業に備える	9	定期演奏会プログラム①（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となつてゐる楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	2	基礎合奏 他	教材となつてゐる楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	10	定期演奏会プログラム②（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となつてゐる楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	3	合奏における注意点 他	教材となつてゐる楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	11	定期演奏会プログラム③（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となつてゐる楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	4	吹奏楽コンクール課題曲Ⅰ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅠ）	教材となつてゐる楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	12	定期演奏会プログラム④（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となつてゐる楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
授業の概要										
アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする。	5	吹奏楽コンクール課題曲Ⅱ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅡ）	教材となつてゐる楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	13	総リハーサル（本番を想定し、緊張感をもって臨む）	プログラム全曲について、注意すべき点をチェックする	注意や指摘されたところの最終調整と練習		
	6	吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅢ）	教材となつてゐる楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	14	定期演奏会（これまでの内容を演奏会に活かす）	本番に備えての準備他	本番を終えての反省点をまとめる		
	7	吹奏楽コンクール課題曲Ⅳ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅣ）	教材となつてゐる楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	15	総括と反省会	反省点をまとめて準備しておく	前期で学んだことの確認と後期への展望を考える		
	8	吹奏楽コンクール課題曲Ⅴ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅤ）	教材となつてゐる楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	備考 ※管弦打楽コースのみ必修／音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単位以上」の中の一つとなる					
教科書・テキスト等	各担当者により指示			成績評価基準	評価方法		割合（％）	評価のポイント		
			平常点 課題演奏		30% 70%	授業態度と積極的姿勢 学修課題を理解し、演奏に活かす				
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M4C12 合奏Ⅳ	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	必修			選択必修	A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
前期の経験により得たことを活かし、吹奏楽の更なる研究、演奏者・指導者としての両方の視点で授業に参加し、より深く学んでいくこと、将来的に指導者を目指すものに対して適応力および対応力をも養うことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の復習（前期に学んだことの復習および確認）	前期で学んだことを今一度復習しておく	次の授業に備える	9	基本的奏法の修得とその応用⑧（各楽器・パートそれぞれの役割について）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	2	基本的奏法の修得とその応用⑨（教材となる曲の発表とその音出し）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	10	基本的奏法の修得とその応用⑨（様々な楽器の特色と奏法）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	3	基本的奏法の修得とその応用⑩（教材曲の演奏と分析）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	11	基本的奏法の修得とその応用⑩（音楽的表現における音色の研究）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	4	基本的奏法の修得とその応用⑪（リズム・音程のトレーニング）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	12	基本的奏法の修得とその応用⑪（更なる表現方法の研究）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
授業の概要										
アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする。	5	基本的奏法の修得とその応用④（リズム・音程のトレーニングを基に発想を自由に転換）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	13	まとめ①（教材楽曲を通しての確認と応用①）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	6	基本的奏法の修得とその応用⑤（独奏では経験できない音楽体験をする）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	14	まとめ②（教材楽曲を通しての確認と応用②）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	7	基本的奏法の修得とその応用⑥（アンサンブルを通して曲の表現方法を学ぶ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	15	まとめ③（教材楽曲の発表会〔ミニコンサート〕）	発表会への準備等	授業の総括と反省		
	8	基本的奏法の修得とその応用⑦（合奏というジャンルを幅広く理解する）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	備考 ※管弦打楽コースのみ必修／音楽療法士 1 種においては実技に関する科目群「22 単位以上」、2 種においては「14 単位以上」の中の一つとなる					
教科書・テキスト等	各担当者により指示			成績 評価 基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント		
					平常点 課題演奏	30% 70%	授業態度と積極的姿勢 学修課題を理解し、演奏に活かす			
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M4N25 アートマネージメントⅢ	脇山 純	単独	2 単位	音楽学科 3 年次	前期	※				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
・ICTを使い、情報を集め、まとめ、発表する能力を育てる。 ・音楽ホールについてより深く理解する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	博物館概論 今まで行ったことのある博物館 博物館の定義	シラバスに目を通す	博物館とは何かをまとめる	9	指定管理者制度	指定管理者制度について調べる	指定管理者制度のメリットとデメリットを調べる		
	2	博物館法 博物館の根拠法	博物館について調べる	博物館法の定義をまとめる	10	劇場法 ホールの根拠法は？	博物館に対して博物館法があるように、ホールの根拠法	劇場法の現状を調べる		
	3	博物館の役割 ICOMの定義	ICOMの定義と博物館法の定義の比較	ICOMの定義（原文）の単語を調べ、翻訳する	11	メディア（１） インターネット	ネット時代のメディアについて調べる	メディアとしてのインターネットについてまとめる		
	4	日本の「学芸員」と外国の「キュレーター」の仕事、権限の違い	学芸員について調べる	キュレーターとの比較をまとめる	12	メディア（２） テレビ、FM、ラジオ 新聞、雑誌	インターネット以外のメディアについて調べる	インターネット以外のメディアについてまとめる		
授業の概要										
音楽そのものではなく、音楽をめぐる周辺の学修を行う。 ・音楽ホールについて考える前に、博物館を調べる。 ・博物館のハード（建物、施設等）とソフト（学芸員、博物館の努力）を考える。 ・博物館から音楽ホールへ視点を換え、考察する。 ・インターネットで検索する。	5	コンサートホール、演劇ホール、多目的ホール、行ったことのあるコンサートホール	知っている音楽ホールについて調べる	世界の有名な音楽ホールについて調べる	13	ネット時代の教育 デジタル教科書 電子黒板 反転授業	今の教育を考える	教育現場でのICTの活用をまとめる		
	6	音楽ホール 日本と海外 形状による分類	行ったことのある音楽ホールを形状で分類する	形状による違いをまとめる	14	音楽の仕事 演奏家、音楽講師以外の音楽にかかわる仕事	音楽に携わる仕事を調べる	自分の就きたい仕事と音楽の関わりを考え、まとめる		
	7	良いホールの条件 有料ホール１００選（日本音楽家協会）	誰にとって良いホールかを視点を換えて考える	良いホールの条件をまとめる	15	ICT時代のアートマネージメントとは 前期で扱った内容の復習 アートマネージメントの社会的役割	アートマネージメントのまとめ	アートマネージメントの社会的役割をまとめる		
	8	ホールの音響 音響反射板 ホールの設計	良いホールの条件の一つ「音響」についてしらべる	DAWで「響き」に関するプラグインを試す	備考 ※サウンドデザインコース必修 ※ミュージックパフォーマンスコース必修					
教科書・テキスト等	担当教員が配付、指示する			成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
					課題／レポート 平常点（態度）	80% 20%	課題を授業中にまとめる（クラウドで保存） インターネットの検索と発表等			
参考書・参考資料等	図書館の関係蔵書									

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M4N26 アートマネージメントⅣ	小西 たくま	単独	2 単位	音楽学科 3 年次	後期	※				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
アートマネージャーとして、アートマネージメントをハンドリング出来るようになる。アートマネージャーとして、音楽を中心とした様々な企画の立案、実施ができるようになる。アートマネージメント力を活かすことができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	アートマネージメントが果たす社会的役割について考える。	シラバスを熟読する。	Art. Mの社会における必要性を考える。	9	舞台監督として舞台作りの関わり方を学ぶ。	上演するために事前に知るべき事柄を考える	舞台作りに必要な課題を考える		
	2	アートマネージャー、アートサポーターの活動を通して、アートマネージメントの意味・意義を考える。	自ら可能な立ち位置を模索する	社会的活動を識る	10	舞台監督として舞台上演への関わり方を学ぶ。	上演するために現場で行うべき業務を考える	劇場、舞台についての知識を確認する		
	3	アートマネージメントのフィールドでアーティストやスタッフがもたらす社会的効果・効能について考える。	ステージパフォーマンスの社会的役割を考える	どのような企画が必要かを考える	11	企画・上演された作品を基に課題を検証する。	体験した過去の舞台から課題を見つける	検証方法の確認と、次回への生かし方考える		
	4	コンサートなどの企画、立案についてその方法を学ぶ。	過去のコンサート体験を想起する	コンサートで起こりうる課題について考える	12	TV制作現場の業務と意義を学ぶ。	自らのTV世界観をもつ	見学後、感想をまとめる		
授業の概要										
アートマネージメントと社会の関わり、アートマネージメントの社会的役割を知る。コンサートやオペラ、ミュージカルを含む催事の企画作成から上演までを考察。音源ソフトを業務使用する現場（TV局、FM局、制作会社など）を訪ね、その状況や課題を实地研修する。	5	プロデューサーとして企画を立案作成する。	プロデューサーの役割を考える	企画をいくつか立案する	13	FMラジオ制作現場の業務と意義を学ぶ。	自らのFM世界観をもつ	見学後、感想をまとめる		
	6	プロデューサーとしてスタッフを組織し、予算を管理する方法を学ぶ。	コンサートを上演するのに必要なスタッフを考える	各スタッフの業務内容を再考する	14	TV・ラジオ等のプログラム作成及びイベント作成を行う。制作会社を訪ね、その業務と意義を学ぶ。	番組やイベントの制作への思いを馳せる。	見学、後感想をまとめる		
	7	プロデューサーとして全体スケジュールを作成し、管理する方法を学ぶ。	スケジュールプログラムの必要性を考える	実際に企画から公演終了迄のスケジュールを作成する	15	まとめとして、アートマネージメントを活かす自らの取り組みについてレポートに記す。	質問事項を想起しておく	アートマネージメントの世界で自らの活用を再考する		
	8	舞台監督の役割と業務を理解する。	舞台におけるスタッフ業務を考える	舞台監督の各カテゴリーにおける特殊性を考える	備考 ※サウンドデザインコース必修／ミュージックパフォーマンスコース必修					
教科書・テキスト等	適宜プリント配付				成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント		
						課題 / レポート	80%	企画し、上演し、検証する迄を把握する力、アートマネージメント活用への意欲		
参考書・参考資料等						平常点(態度・行動観察)	20%	疑問点の取組み、受講態度、課題の取組み		

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M1C25 和声学ⅠA (キーボードハーモニーを含む)	西林 博子	単独	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	必修	必修		選択必修	A C D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
和声学ⅠAでは基本的な和音の学習と、西洋音楽の古典期に確立された機能と和声を鍵盤上に適用し、音楽指導者として必要なハーモニー感、終止感、鍵盤力の基礎を習得し、音楽現場での実践力を養うことを目標とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション／学修内容の全体の説明。和声を学習するうえで必要な知識について。音階とコードネームについて。	テキストP13～15の予習	配布プリントの演習	9	基本位置3和音の連結の手順の確認及び解説／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-V7-Ⅰ）長・短調	テキストP17～48 基本位置3和音の復習	課題練習・カデンツツトレーニング		
	2	基本位置3和音の配置／声部、音域、配置（密集、開離）、高位等の知識から標準配置を理解する。／カデンツ（Ⅰ-V7-Ⅰ）長調	テキストP17～27の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング	10	基本位置3和音の連結の総括／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-V7-Ⅰ）長・短調	テキストP17～48 基本位置3和音の復習	課題練習・カデンツツトレーニング		
	3	基本位置3和音の進行の制限、2音の関係、禁則（連続、並進）を理解し、基本位置3和音を連結する。／カデンツ（Ⅰ-V7-Ⅰ）長調	テキストP25～33の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング	11	3和音の第1転回（Ⅰ ⁺ 、Ⅳ ⁺ 、Ⅴ ⁺ ）の標準配置と連結について（1転⇄基本形、1転⇄1転）／カデンツと伴奏付け	テキストP49～53の予習	和声課題・伴奏付け課題演習		
	4	基本位置3和音の連結／Ⅱ→Ⅴの連結について／カデンツ（Ⅰ-V7-Ⅰ）短調	テキストP34～36の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング	12	3和音の第1転回の標準連結／Ⅱ ⁺ の配置・連結／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-Ⅰ ⁺ V7-Ⅰ）と伴奏付け	テキストP54～56の予習	和声課題・伴奏付け課題演習		
授業の概要	5	基本位置3和音の連結／Ⅴ→Ⅵの連結について／カデンツ（Ⅰ-V7-Ⅰ）短調	テキストP34～36の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング	13	1転3和音を含むバス課題の和音の設定・実施／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-Ⅰ ⁺ V7-Ⅰ）と伴奏付け	テキストP57～59の予習	和声課題・伴奏付け課題演習		
和音とコードを習得する。和声の実習から機能と和声を学び、更にキーボードハーモニーとしての実践と伴奏付けとして和音を活かす。総合的なソルフェージュとして実践する。	6	和音設定の原理と各種のカデンツを理解し、和音の設定を行えるようにする。／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-V7-Ⅰ）長調	テキストP37～41の予習	配布プリントの演習（課題9）カデンツツトレーニング	14	1転3和音を含むバス課題の実施／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-Ⅰ ⁺ V7-Ⅰ）と伴奏付け	テキストP59～60 課題19の演習	課題19和声課題・伴奏付け課題演習		
	7	基本位置3和音の連結を様々な調で行えるようになる。（移調）／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-V7-Ⅰ）長調	テキストP43～45の予習	配布プリント演習（課題10）カデンツツトレーニング	15	和声学Ⅰのまとめ	テキストP17～60 バス課題の復習	既習事項・資料バス課題の復習		
	8	様々な調で実習した基本位置3和音の連結を移調し短調でも行えるようになる。（移調）／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-V7-Ⅰ）短調	テキストP46～48の予習	配布プリント演習（課題12）・カデンツツトレーニング						
教科書・テキスト等	和声Ⅰ 理論と実習（音楽之友社）、新総合音楽講座2. ソルフェージュ（ヤマハ）、プリント			成績評価基準	評価方法		割合（％）	評価のポイント		
					平常点 演習課題提出 定期試験	10％ 10％ 80％	積極的な取り組み、出席時数2/3 講義内容についての理解度を評価する 実技試験（伴奏付け）筆記（和声課題）			
参考書・参考資料等										

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M1C25 和声学ⅠB (キーボードハーモニーを含む)	西林 博子	単独	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	必修	必修		選択必修	A C D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
和声学ⅠBでは基本的な和音の学習と、西洋音楽の古典期に確立された機能と和声を鍵盤上に適用し、音楽経験者として必要なハーモニー感の基礎を習得する。総合的なソルフェージュ力の基礎を養うことを目標とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション／学修内容の全体の説明。和声を学習するうえで必要な知識について。音階とコードネームについて。	シラバスの熟読	配布プリント① 演習	9	コードネームによる4声体和声（密集）／ カデンツ（長調Ⅰ-Ⅳ-V7-Ⅰ）（P. 72、73）	プリント⑨コードネームによる4声体和声の予習	プリント⑨の習熟、カデンツ、伴奏付け		
	2	和音について／ カデンツ（長調Ⅰ-V7-Ⅰ）（P. 60）	プリント②和音について予習	プリント②の習熟、カデンツトレーニング	10	共通音がない和音の連結（連続1.5.8度について）／カデンツ（長調Ⅰ-Ⅳ-V7-Ⅰ）（課題②-3,5）	プリント⑩禁則連続1.5.8度について予習	プリント⑩の習熟、カデンツ、伴奏付け		
	3	音階上の和音①・主要三和音／ カデンツ（長調Ⅰ-V7-Ⅰ）（P. 60, 61）	プリント③主要3和音について予習	プリント③の習熟、カデンツトレーニング	11	コードネームによる属7の和音を含むバス課題①／カデンツ（短調Ⅰ-Ⅳ-V7-Ⅰ）（課題②-2）	プリント⑪予習	プリント⑪の実習、カデンツ、伴奏付け		
	4	音階上の和音②各種の調／ カデンツ（長調Ⅰ-V7-Ⅰ）実践（P. 62, 63, 64）	プリント④各種の音階上の和音について予習	プリント④の習熟、カデンツ、伴奏付け	12	コードネームによる属7の和音を含むバス課題②／カデンツ（短調Ⅰ-Ⅳ-V7-Ⅰ）（課題①-17,）	プリント⑫実習	プリント⑫の実習、カデンツ、伴奏付け		
	5	和音の連結／カデンツ（長調Ⅰ-V7-Ⅰ）実践（課題①-1～5）	プリント⑤和音の連結について予習	プリント⑤の習熟、カデンツ、伴奏付け	13	同一和音の連結について／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-V7-Ⅰ）長・短調（課題①②）	プリント⑬同一和音の連結について予習	プリント⑬の実習、カデンツ、伴奏付け		
	6	継続する和音（共通音保留）／ カデンツ（短調Ⅰ-V7-Ⅰ）（P. 60）	プリント⑥継続する和音について予習	プリント⑥の習熟、カデンツトレーニング	14	コードネームによるバス課題のまとめ／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-V7-Ⅰ）長・短調（課題①②）	プリント⑭⑮の実習	プリント⑭⑮の実習、伴奏付け		
	7	継続する和音（増一度）／ カデンツ（短調Ⅰ-V7-Ⅰ）（P. 60）	プリント⑦増一度進行について予習	プリント⑦の習熟、カデンツトレーニング	15	和声学Ⅰのまとめ	コードネームによるバス課題のまとめ	既習事項・資料のまとめ		
	8	4声体と声部、基本形と転回形／ カデンツ（短調Ⅰ-V7-Ⅰ）実践（課題①-3,6）	プリント⑧4声体と声部、基本形と転回形について	プリント⑧の習熟、カデンツ、伴奏付け						
教科書・テキスト等	新総合音楽講座2. ソルフェージュ(ヤマハ)、プリント			成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
					平常点	30%	積極的な取り組み、出席時数2/3			
参考書・参考資料等					演習課題提出	20%	講義内容についての理解度を評価する			
					定期試験	50%	実技試験（伴奏付け）筆記（和声課題）			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2MIC26 和声学ⅡA (キーボードハーモニーを含む)	西林 博子	単独	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	必修	必修		選択必修	A C D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
和声学ⅡAでは基本的な和音の学習と、西洋音楽の古典期に確立された機能と和声の鍵盤上に適用し、音楽指導者として必要なハーモニー感、終止感、鍵盤力の基礎を習得し、音楽現場での実践力を養うことを目標とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	和声Ⅰ既習事項の確認。第2転回位置3和音の標準配置。2転バスの定型	テキストP61～64の予習	配布プリントの演習	9	V7転回型の和音の配置と連結の確認／コードネームによる副属七を含む和音の連結と様々なコードによる伴奏付け	テキストP69～76のまとめ	配布プリントの演習・伴奏課題の演習		
	2	2転3和音を含むバス課題の実施／カデンツ（ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ）長調	テキストP64～65の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング	10	V7の和音の連結（V7→Ⅵ）／コードネームによる副属七を含む和音の連結と様々なコードによる伴奏付け	テキストP77～79の予習	配布プリントの演習（課題30）・伴奏課題の演習		
	3	2転3和音を含むバス課題の実施／カデンツ（ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ）長調	テキストP65～67の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング	11	V7の根音省略の構成音、配置、連結について／コードネームによる副属七を含む和音の連結と様々なコードによる伴奏付け	テキストP80～83の予習	配布プリントの演習・伴奏課題の演習		
	4	第1転回・第2転回を含むバス課題の総括／カデンツ（ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ）短調	テキストP61～67の復習・課題24	配布プリントの演習・カデンツトレーニング	12	V7の根音省略を含むバス課題／楽曲アナリゼ（ブルグミュラー）／様々なコードによる伴奏付け	テキストP83～84の予習／分析用楽曲の演奏	配布プリントの演習（課題34）		
授業の概要										
和音とコードを習得する。和声の実習から機能と和声を学び、更にキーボードハーモニーとしての実践と伴奏付けとして和音を活かす。総合的なソルフェージュとして実践する。	5	V7の和音について、構成音、配置、転回位置、限定進行音、バスの定型／カデンツ（ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ）短調	テキストP69～72の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング	13	V7の和音、第1転回、第2転回すべての連結を含むバス課題の演習／楽曲アナリゼ（ブルグミュラー）／様々なコードによる伴奏付け	テキストP17～84のまとめ／分析用楽曲の演奏	配布プリントの演習		
	6	V7の和音の連結（V7→後続和音）限定進行音、V7→Ⅰ ¹ の連結について／カデンツ（ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ）と伴奏付け	テキストP72～73の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング	14	V7の和音、第1転回、第2転回すべての連結を含むバス課題の演習／様々なコードによる伴奏付け	テキストP17～84のまとめ	配布プリントの演習・伴奏課題の演習		
	7	V7の和音の連結（先行和音→V7）バスの定型、和音設定について／カデンツ（ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ）と伴奏付け	テキストP73～76の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング	15	和声学Ⅱのまとめ	テキストP17～84のまとめ、課題演習	既習事項・資料のまとめ		
	8	V7を含むバス課題を様々な調で実習する。／カデンツ（ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ）と伴奏付け	テキストP69～76のまとめ	配布プリントの演習（課題28）・カデンツトレーニング						
教科書・テキスト等	和声Ⅰ 理論と実習(音楽之友社)、新総合音楽講座2. ソルフェージュ(ヤマハ)、プリント				成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等						平常点	10%	積極的な取り組み、出席時数2/3		
						演習課題提出	10%	講義内容についての理解度を評価する		
						定期試験	80%	実技試験（伴奏付け）筆記（和声課題）		

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2MIC26 和声学ⅡB (キーボードハーモニーを含む)	西林 博子	クラス分け	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	必修	必修		選択必修	A C D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
和声学ⅡBでは基本的な和音の学習と、西洋音楽の古典期に確立された機能と和声の鍵盤上に適用し、音楽経験者として必要なハーモニー感の基礎を習得する。総合的なソルフェージュ力の基礎を養うことを目標とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	和声Ⅰの確認・第1転回形①（Ⅱ ¹ について）／カデンツと伴奏付け長調（p.84）	和声学Ⅰの復習、テキストカデンツ練習	学習内容の習熟、課題実践、カデンツ	9	主要3和音の第1転回形を含むバス課題／カデンツ（ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ）長調（課題②-11）	伴奏付け課題の予習	和声課題②・伴奏付け課題演習		
	2	第2転回形②（Ⅰ ² 、Ⅳ ² について）／カデンツと伴奏付け短調（p.84）	Ⅰ ² 、Ⅳ ² の予習⑩、カデンツ練習	和声課題⑩・伴奏付け課題演習	10	V ² について／カデンツ（ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ）長調（課題②-12）	伴奏付け課題の予習	和声課題⑩・伴奏付け課題演習		
	3	転回形を含むバス課題①／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-Ⅰ ² V7-Ⅰ）と伴奏付け（課題③-1）	伴奏付け課題の予習	和声課題⑪・伴奏付け課題演習	11	V（7）→Ⅵの連結①／カデンツ（ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ）短調（p.85）	テキストカデンツ練習	和声課題⑪・伴奏付け課題演習		
	4	転回形を含むバス課題②／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-Ⅰ ² V7-Ⅰ）と伴奏付け（課題③-2）	伴奏付け課題の予習	和声課題⑬・伴奏付け課題演習	12	V（7）→Ⅵの連結②／カデンツ（ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ）短調（課題③-20）	伴奏付け課題の実習	和声課題⑬・伴奏付け課題演習		
	5	属7の転回形①／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-Ⅰ ² V7-Ⅰ）と伴奏付け（課題③-3）	伴奏付け課題の予習	和声課題⑬・伴奏付け課題演習	13	バス課題のまとめ①／カデンツ（ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ）長・短調（課題②、③）	伴奏付け課題の予習	和声課題⑬・伴奏付け課題演習		
	6	属7の転回形②／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-Ⅰ ² V7-Ⅰ）と伴奏付け（課題③-4）	伴奏付け課題の予習	和声課題⑬・伴奏付け課題演習	14	バス課題のまとめ②／カデンツ（ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ）長・短調（課題②、③）	伴奏付け課題の予習	和声課題⑬・伴奏付け課題演習		
	7	属7の転回形③／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-Ⅰ ² V7-Ⅰ）と伴奏付け（課題③-5）	伴奏付け課題の実習	和声課題⑭・伴奏付け課題演習	15	和声学Ⅱのまとめ	バス課題のまとめ、伴奏付け実習	既習事項・資料のまとめ		
	8	主要3和音の第1転回形①（三音重複禁止）／カデンツ（ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ）長調（p.85）	テキストカデンツ練習	和声課題⑭・伴奏付け課題演習						
教科書・テキスト等	新総合音楽講座2.ソルフェージュ(ヤマハ)、プリント			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 演習課題提出 定期試験	30% 20% 50%	積極的な取り組み、出席時数2/3 講義内容についての理解度を評価する 実技試験（伴奏付け）筆記（和声課題）			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M1C27 和声学Ⅲ (キーボードハーモニーを含む)	西林 博子	単独	2 単位	音楽学科 3 年次	前期	選択			選択必修	A B C D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
各種音楽メーカーの採用試験、グレード試験にも対応できる実践力の基礎力を付け、伴奏付け、即興演奏、創作へと発展させる。感覚と理論を結びつけ、活き活きた演奏、伴奏を目指す。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション／和声Ⅰ・Ⅱの復習／Ⅱ [♯] 、Ⅰ [♯] ⅤⅦを含むカデンツ（長調）モーツァルト型・ショパン型、伴奏付け	テキストP15～19、課題楽曲の演奏と和音アナリーゼ	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け、和声）	9	副属7（Ⅳ度調のⅤ）③カデンツ、伴奏付け、様々な楽曲での使用例、コードによる4声体バス課題	テキストP52～課題3、6（伴奏付け）	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け、和声）		
	2	和声Ⅰ・Ⅱの復習／非和声音・準和声音、Ⅱ [♯] 、Ⅰ [♯] ⅤⅦを含むカデンツ（短調）モーツァルト型・ショパン型、伴奏付け	テキストP15～19、課題楽曲の演奏と和音アナリーゼ	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け、和声）	10	副属7（Ⅱ度調のⅤ）①カデンツ、伴奏付け、アナリーゼ（ブルグミュラー第9番）転調について	課題演習（伴奏付け）	課題演習（伴奏付け、ピアノ曲楽譜作成）		
	3	Ⅱ [♯] 、Ⅰ [♯] ⅤⅦを含むカデンツ（長・短調）モーツァルト型・ショパン型、伴奏付け、ナボリの6	テキストP15～19	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け、和声）	11	副属7（Ⅱ度調のⅤ）②カデンツ、伴奏付け	課題演習（伴奏付け）	課題演習（伴奏付け、ピアノ曲楽譜作成）		
	4	副属7（Ⅴ度調のⅤ）①カデンツ、半終止的用法について、アナリーゼ（ブルグミュラー第1番）・伴奏付け	テキストP52～課題7（伴奏付け、）テキストP19～20	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）	12	副属7（Ⅱ度調のⅤ）③カデンツ、伴奏付け、様々な楽曲での使用例、コードによる4声体バス課題	課題演習（伴奏付け）	既習事項・資料のまとめ		
授業の概要										
和声、キーボード・ハーモニーⅠ・Ⅱの応用と発展。和音を拡大し、様々な終止形を経験する。楽曲アナリーゼ、既成の曲の伴奏付けを通して、より豊かなハーモニーを習得する。	5	副属7（Ⅴ度調のⅤ）②カデンツ、アナリーゼ（ブルグミュラー第1番）・伴奏付け、コードによる4声体バス課題	課題演習（伴奏付け）	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）	13	副属7を含むカデンツ・伴奏付けの総括①伴奏付け、ピアノ曲として完成させ楽譜に書く	課題演習（伴奏付け）	課題演習（伴奏付け、ピアノ曲楽譜作成）		
	6	副属7（Ⅳ度調のⅤ）③カデンツ、伴奏付け、様々な楽曲での使用例、コードによる4声体バス課題	課題演習（伴奏付け）	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け、和声）	14	副属7を含むカデンツ・伴奏付けの総括②伴奏付け、ピアノ曲として完成させ楽譜に書く	課題演習（伴奏付け）	課題演習（伴奏付け、ピアノ曲楽譜作成）		
	7	副属7（Ⅳ度調のⅤ）①カデンツ、準固有和音。Ⅳを含むカウンターラインについて	テキストP22～23、課題演習（伴奏付け）、課題楽曲の演奏	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）	15	Ⅲのまとめ	課題演習（伴奏付け）	既習事項・資料のまとめ		
	8	副属7（Ⅳ度調のⅤ）②カデンツ、伴奏付け、アナリーゼ（ブルグミュラー第2番）	テキストP52課題2（伴奏付け）	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）						
教科書・テキスト等	新総合音楽講座2. ソルフエージュ(ヤマハ)、和声Ⅰ 理論と実習（音楽之友社）				成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等						平常点	10%	積極的な取り組み、出席時数2/3		
						演習課題提出	20%	出課題の取り組みと理解度を評価		
					定期試験	70%	実技試験（伴奏付け）筆記（和声課題）			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M1C28 和声学Ⅳ (キーボードハーモニーを含む)	西林 博子	単独	2 単位	音楽学科 3 年次	後期	選択			選択必修	A B C D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
各種音楽メーカーの採用試験、グレード試験にも対応できる実践力の基礎力を付け、伴奏付け、即興演奏、創作へと発展させる。感覚と理論を結びつけ、活き活きた演奏、伴奏を目指す。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	和声学Ⅲの復習①カデンツの復習、伴奏付けを通して、非和声音を確認する。コードによる4声体バス課題	カデンツ練習・テキストP12～13	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け、和声）	9	反復進行ゼクエント、ドミナント進行カデンツ、伴奏付け、コードによる4声体バス課題	課題楽曲の演奏と和音アナリーゼ	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け、和声）		
	2	和声学Ⅲの復習②カデンツの復習、伴奏付け、移調、コードによる4声体バス課題	課題演習（伴奏付け）	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け、和声）	10	経過和音aug. dim.などの経過和音のカデンツと使用例について	課題楽曲の演奏と和音アナリーゼ	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）		
	3	副属7（Ⅵ度調のⅤ）①カデンツの練習、伴奏付け、移調	テキストP52～課題1（伴奏付け）	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）	11	カデンツと伴奏付けの総括①副属7、ビカルディ終止、主音上のⅤ等	課題楽曲の演奏と和音アナリーゼ	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）		
	4	副属7（Ⅵ度調のⅤ）②カデンツの練習、伴奏付け、移調、コードによる4声体バス課題	テキストP52～課題3.10（伴奏付け）	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け、和声）	12	カデンツと伴奏付けの総括②ラインクリシェ、バスの半音進行によるカウンターライン、循環コードについて	課題楽曲の演奏と和音アナリーゼ	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）		
授業の概要										
和声・キーボード・ハーモニーⅠ・Ⅱ・Ⅲの応用と発展。和音を拡大し、様々な終止形を経験する。楽曲アナリーゼ、既成の曲の伴奏付けを通して、より豊かなハーモニーを習得する。	5	副属7（Ⅲ度調のⅤ）①カデンツ、短調から平行長調へ転調、伴奏付け	テキストP52～課題16（伴奏付け）	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）	13	総合練習①様々なコードを楽曲にふさわしい転回形、伴奏形で使用しより音楽的な伴奏をつける	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）		
	6	副属7（Ⅲ度調のⅤ）②カデンツ、短調から平行長調へ転調、伴奏付け	テキストP52～課題17（伴奏付け）	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）	14	総合練習②様々なコードを楽曲にふさわしい転回形、伴奏形で使用しより音楽的な伴奏をつける	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）		
	7	転回とⅥ度カデンツ練習、悲愴の2楽章のアナリーゼ、コードによる4声体バス課題	悲愴の2楽章冒頭8小節の演奏と和音アナリーゼ	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け、和声）	15	Ⅳのまとめ	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）	既習事項・資料のまとめ		
	8	Ⅱ度調のS→Ⅱ度調のV→Ⅱカデンツ、楽曲中の使用例（オーラリー、モミの木）伴奏付け	課題楽曲の演奏と和音アナリーゼ	カデンツ練習・課題演習（伴奏付け）						
教科書・テキスト等	新総合音楽講座2. ソルフエージュ(ヤマハ)、和声Ⅰ 理論と実習（音楽之友社）			成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
	平常点		10%		積極的な取り組み、出席時数2/3					
	演習課題提出		20%		出課題の取り組みと理解度を評価					
参考書・参考資料等				定期試験	70%	実技試験（伴奏付け）筆記（和声課題）				

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M1C21 ソルフェージュⅢA	村橋 和子	単独	2 単位	音楽学科 2・3 年次	前期	必修	選択必修		選択必修	A D
授業のテーマ及び到達目標		授 業 計 画								
#♭2 つまでの調による聴音、視唱などを行い、リズム打ちでは様々な拍子、十六分音符までの多様な課題を用い、ソルフェージュ力を身につける。また移動ド唱法や初見演奏、コードによる伴奏付なども自信を持って取り組むことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 授業の進め方を把握する	シラバスを熟読する	コールユーブンゲンを視唱Gdur	9	聴音(単旋律Bdur/g mol1、2 声emol1、4 声Fdur) リズム打ち♩、初見視唱Ddur/hmol1、初見視奏Cdur	コールユーブンゲンを視唱dmol1	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する		
	2	聴音(単旋律Gdur/amol1、2 声Cdur、4 声Cdur) リズム打ち♩、初見視唱Cdur/amol1、コールユーブンゲン	コールユーブンゲンを視唱Gdur	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する	10	聴音(単旋律Ddur/hmol1、2 声dmol1、4 声Fmol1) リズム打ち♩、初見視唱Bdur/g mol1、初見視奏Fdur	コールユーブンゲンを視唱Ddur	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する		
	3	聴音(単旋律Fdur/dmol1 2 声amol1、4 声Cdur) リズム打ち♩シンコペーション、初見視唱Gdur/emol1	コールユーブンゲンを視唱Gdur	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する	11	聴音(単旋律#♭2 つまで、2 声Bdur、4 声amol1)、リズム打ち♩、初見視唱、視奏Fdur、コード付	コールユーブンゲンを視唱hmol1	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する		
	4	聴音(単旋律Gdur/emol1、2 声amol1、4 声Cdur) リズム打ち♩、初見視唱Fdur/dmol1 コールユーブンゲン	コールユーブンゲンを視唱emol1	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する	12	聴音(単旋律#♭2 つまで、2 声g mol1、4 声amol1)、リズム打ち♩、初見視唱、初見視奏Fdur、コード伴奏付	コールユーブンゲンを視唱Bdur	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する		
授業の概要										
ソルフェージュⅠ・Ⅱで習得した基礎力を基に、さまざまな要素を含んだ楽曲の初見視唱、リズム打ち、聴音などを行い、ソルフェージュ力を高める。また移動ド唱法や初見演奏、コードによる伴奏付なども学ぶ。事前学修のコールユーブンゲンは毎時視唱する。	5	聴音(単旋律Fdur/dmol1、2 声Fdur、4 声Cdur) リズム打ち3 連符、初見視唱Gdur/emol1、コールユーブンゲン	コールユーブンゲンを視唱emol1	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する	13	聴音(単旋律、2 声Ddur、4 声amol1) リズム打ち、初見視唱、初見視奏Gdur、コード伴奏付amol1	コールユーブンゲンを視唱gmol1	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する		
	6	聴音(単旋律Gdur/emol1、2 声/dmol1、4 声Cdur) リズム打ち3 連符、初見視唱Fdur/dmol1	コールユーブンゲンを視唱Fdur	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する	14	聴音(単旋律、2 声hmol1、4 声amol1)、リズム打ち、初見視唱、初見視奏dmol1、コード伴奏付amol1	コールユーブンゲンを視唱(これまで学修した全調)	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する		
	7	聴音(単旋律Bdur/g mol1、2 声emol1、4 声Cdur) リズム打ち、初見視唱Ddur/hmol1	コールユーブンゲンを視唱Fdur	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する	15	まとめ(聴音、初見視唱、初見視奏、コールユーブンゲン 視唱による試験、すべて#♭2 つまでの調について行う)	コールユーブンゲンを視唱(これまで学修した全調)	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する		
	8	聴音(単旋律Ddur/hmol1、2 声Gdur、4 声Fdur) リズム打ち、タイ、初見視唱Bdur/g mol1 初見視奏Cdur	コールユーブンゲンを視唱dmol1	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する	備考 ※教職課程履修 8 単位必修					
教科書・テキスト等	全訳コールユーブンゲン(大阪開誠館)			成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等					期末試験	80%	筆記試験の点数			
					平常点(態度・行動観察)	20%	授業への集中、受講態度			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M1C21 ソルフェージュⅢB	西林 博子	単独	2 単位	音楽学科 2・3 年次	前期	必修	選択必修		選択必修	A B D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
ヘ長調・イ短調・ヘ長調での4 分の4 拍子、4 分の3 拍子、8 分の6 拍子での視唱、聴音（旋律・二声・和音）複雑なリズムパターン、ヘ長調のカデンツを習得し、読譜や演奏ができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明 ソルフェージュⅠ・Ⅱの復習	シラバスの熟読	ソルフェージュⅠ・Ⅱでの課題を書き出す	9	大譜表の2つの旋律 （視唱・聴音・リズム練習）	音程練習	演習課題の読譜 と演奏を反復する		
	2	単純拍子の複雑なリズム （視唱・聴音・リズム練習）	拍子に合わせた リズム練習	演習課題の読譜 と演奏を反復する	10	3和音と3声体 （視唱・聴音・リズム練習）	音程練習	演習課題の読譜 と演奏を反復する		
	3	休符とタイを含む単純拍子の複雑なリズム （視唱・聴音・リズム練習）	拍子に合わせた リズム練習	演習課題の読譜 と演奏を反復する	11	ヘ長調／単純拍子 （視唱・聴音・リズム練習・移動ド）	ヘ長調のスケールとカデンツ練習	演習課題の読譜 と演奏を反復する		
	4	複合拍子の複雑なリズム （視唱・聴音・リズム練習）	拍子に合わせた リズム練習	演習課題の読譜 と演奏を反復する	12	ヘ長調／複合拍子 （視唱・聴音・リズム練習・移動ド）	ヘ長調の移動ド練習	演習課題の読譜 と演奏を反復する		
授業の概要	5	休符とタイを含む複合拍子の複雑なリズム （視唱・聴音・リズム練習）	拍子に合わせた リズム練習	演習課題の読譜 と演奏を反復する	13	ヘ長調／和音 （視唱・聴音・リズム練習・移動ド）	ヘ長調の移動ド練習	演習課題の読譜 と演奏を反復する		
さまざまな要素を含む楽曲を題材にして、バランスのとれたソルフェージュ力を養い、表現や音に対する細やかな感覚を育てるための演習を行う。	6	リズムパターンと音の融合 （視唱・聴音・リズム練習）	既習課題の復習	演習課題の読譜 と演奏を反復する	14	聴音課題の内容理解を確認する	既習課題の確認	演習課題の読譜 と演奏を反復する		
	7	1～6の内容確認 リズムアンサンブル	拍子に合わせた リズム練習	演習課題の読譜 と演奏を反復する	15	リズム・視唱課題の内容理解を確認する	既習課題の確認	演習課題の読譜 と演奏を反復する		
	8	ト音譜表の2つの旋律 （視唱・聴音・リズム練習）	音程練習	演習課題の読譜 と演奏を反復する						
	新総合音楽講座2. ソルフェージュ									
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法		割合(%)		評価のポイント				
		平常点（態度・行動観察）		30%		授業の取り組み・参加の態度				
		課題／レポート		20%		リズム・視唱課題の取り組み				
参考書・参考資料等		期末テスト		50%		授業内容の理解				

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M1C22 ソルフエージュⅣA	村橋 和子	単独	2 単位	音楽学科 2・3 年次	後期	必修	選択必修		選択必修	A D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
#b4つまでの調による聴音。視唱はリズム打ちを伴う課題を用い、ソルフエージュ力を身につける。また移動ド唱法や初見演奏、コードによる伴奏付け、さらに伴奏のアレンジやメロディの簡単な編曲なども自信を持って取り組むことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 前期の振り返りを行い、課題に取り組む。	シラバスを熟読する	コールユーブンゲン視唱	9	聴音(単旋律Asdir/fmol1, 2 声 g mol1, 4 声 emol1)リズム打ち+初見視唱、初見視奏Adurコード伴奏アレンジ	コールユーブンゲン視唱dmol1	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する		
	2	聴音(単旋律Ddur/hmol1, 2 声Ddur 4 声Gdur)、リズム打ち+初見視唱、初見視奏、コード伴奏付	コールユーブンゲン視唱Gdur	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する	10	聴音(単旋律Edur/cismol1, 2 声Adur, 4 声dmol1)リズム打ち+初見視唱、初見視奏Adurコード伴奏アレンジ	コールユーブンゲン視唱Ddur	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する		
	3	聴音(単旋律Bdur/g mol1, 2 声h mol1 4 声Gdur)、リズム打ち+初見視唱、初見視奏Bdur、コード伴奏付	コールユーブンゲン視唱Gdur	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する	11	聴音(単旋律Asdur/fmol1, 2 声fismol1, 4 声dmol1)リズム打ち+初見視唱、初見視奏、コード伴奏アレンジ	コールユーブンゲン視唱h mol1	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する		
	4	聴音(単旋律Adur/fismol1, 2 声Ddur 4 声Gdur)、リズム打ち+初見視唱、初見視奏Bdur、コード伴奏付	コールユーブンゲン視唱emol1	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する	12	聴音(単旋律#b 4 つまで 2 声Asdur, 4 声dmol1)リズム打ち+初見視唱、初見視奏Esdur、コード奏メロディアレンジ	コールユーブンゲン視唱Bdur	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する		
授業の概要	5	聴音(単旋律Edur/cmol1, 2 声h mol1, 4 声Gdur)、リズム打ち+初見視唱、初見視奏Bdur、コード伴奏付	コールユーブンゲン視唱emol1	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する	13	聴音(単旋律#b 4 つまで、2 声fmol1, 4 声dmol1)リズム打ち+初見視唱、初見視奏cmol1、コード伴奏メロディアレンジ	コールユーブンゲン視唱g mol1	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する		
ソルフエージュⅢで習得した基礎力を基に、聴音、リズム打ちを伴う視唱、初見演奏などを学修し、さらにソルフエージュ力を高める。またコードによる伴奏付けを発展し、アレンジや変奏も学ぶ。事前学修のコールユーブンゲンは移動ド唱法により毎時視唱する。	6	聴音(単旋律Adur/fismol1, 2 声Bdur 4 声emol1)、リズム打ち+初見視唱、初見視奏g mol1、コード伴奏付	コールユーブンゲン視唱Fdur	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する	14	聴音(単旋律#b 4 つまで、2 声Esdur 4 声dmol1)リズム打ち+初見視唱、初見視奏cmol1、コード伴奏メロディアレンジ	コールユーブンゲン視唱(これまでで学修した全調)	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する		
	7	聴音(単旋律Edur/cmol1, 2 声g mol1, 4 声emol1)リズム打ち+初見視唱、初見視奏g mol1、コード伴奏付	コールユーブンゲン視唱Fdur	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する	15	まとめ(これまでで学修した調による聴音、初見視唱、初見演奏、アレンジを含むコード伴奏付けによる試験)	コールユーブンゲン視唱(これまでで学修した全調)	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する		
	8	聴音(単旋律Edur/cismol1, 2 声Bdur, 4 声emol1)リズム打ち+初見視唱、初見視奏g mol1、コード伴奏アレンジ	コールユーブンゲン視唱dmol1	授業で行った課題で難しいと感じた箇所を復習する	備考 ※教職課程履修8 単位必修					
教科書・テキスト等	全訳コールユーブンゲン(大阪開誠館)			成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
	期末試験		80%		筆記試験の点数					
参考書・参考資料等					平常点 (態度・行動観察)		20%	授業への集中、受講態度		

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M1C22 ソルフエージュⅣB	西林 博子	単独	2 単位	音楽学科 2・3 年次	後期	必修	選択必修		選択必修	A B D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
ハ長調・イ短調・ヘ長調・・ト長調での4分の4拍子、4分の3拍子、8分の6拍子での視唱、聴音（旋律・二声・和音）複雑なリズムパターン、ト長調のカデンツを習得し、読譜や演奏ができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明 ソルフエージュⅠ～Ⅲの復習	シラバスの熟読	ソルフエージュⅠ～Ⅲでの課題を書き出す	9	旋律とハーモニー (視唱・聴音・リズム練習・演奏)	和音練習	演習課題の読譜と演奏を反復する		
	2	ト長調／単純拍子 (視唱・聴音・リズム練習・移動ド唱)	ト長調のスケールとカデンツ練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	10	様々な拍子／舞曲 (視唱・聴音・リズム練習・演奏)	拍子に合わせたリズム練習	演習課題の読譜と演奏を反復する		
	3	ト長調／複合拍子 (視唱・聴音・リズム練習・移動ド唱)	ト長調の移動ド練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	11	様々な拍子／変拍子・混合拍子 (視唱・聴音・リズム練習・演奏)	拍子に合わせたリズム練習	演習課題の読譜と演奏を反復する		
	4	ト長調／和音 (視唱・聴音・リズム練習・移動ド唱)	ト長調の移動ド練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	12	速度記号とテンポ (視唱・聴音・リズム練習・演奏)	拍子に合わせたリズム練習	演習課題の読譜と演奏を反復する		
授業の概要										
さまざまな要素を含む楽曲を題材にして、バランスのとれたソルフエージュ力を養い、表現や音に対する細やかな感覚を育てるための演習を行う。	5	和音とコード (視唱・聴音・リズム練習・演奏)	和音練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	13	総合活動 (旋律・和音・リズムの混合課題)	既習課題の確認	演習課題の読譜と演奏を反復する		
	6	コード譜の読譜 (視唱・聴音・リズム練習・演奏)	和音練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	14	聴音課題の内容理解を確認する	既習課題の確認	演習課題の読譜と演奏を反復する		
	7	1～6の内容確認 リズムアンサンブル	既習課題の復習	演習課題の読譜と演奏を反復する	15	リズム・視唱課題の内容理解を確認する	既習課題の確認	演習課題の読譜と演奏を反復する		
	8	旋律とベースライン (視唱・聴音・リズム練習・演奏)	和音練習	演習課題の読譜と演奏を反復する						
教科書・テキスト等	新総合音楽講座2. ソルフエージュ（ヤマハ）			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点（態度・行動観察） 課題／レポート 期末テスト	30% 20% 50%	授業の取り組み・参加の態度 リズム・視唱課題の取り組み 授業内容の理解			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー	
MC2M3C23 ソルフエージュⅤ	桑原 理恵	単独	2 単位	音楽学科 4 年次	前期	選択	選択必修		選択必修	A B C D E	
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画										
コードネームを習得し、様々な調での視唱・初見・弾き歌い・移調奏ができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	授業内容の説明 ソルフエージュ力の確認	シラバスの熟読	ソルフエージュの不得意な箇所を確認する	9	移調奏③ (移調課題の演習)	上下2度の読み替え練習	演習課題の読譜と演奏を反復する			
	2	調と音階の復習 (調性の理解を確認するための課題)	全調スケール・カデンツ練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	10	移調楽器① (移調楽器の実音と記譜音)	上下3度の読み替え練習	演習課題の読譜と演奏を反復する			
	3	弾き歌い① (コードの種類／簡単な弾き歌い)	全調スケール・カデンツ練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	11	移調楽器② (移調楽器の譜面を演奏する)	上下3度の読み替え練習	演習課題の読譜と演奏を反復する			
	4	弾き歌い② (コードと和音の配置／簡単な弾き歌い)	コード練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	12	移調楽器③ (移調楽器の譜面を作成する)	移調読譜練習	演習課題の読譜と演奏を反復する			
	5	弾き歌い③ (既成楽曲コード譜の弾き歌い)	コード練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	13	実践演習① (移調楽器を含む楽譜の読譜と演奏)	既習課題の確認	演習課題の読譜と演奏を反復する			
	6	弾き歌い④ (ベースラインと和音の配置)	コード練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	14	実践演習② (伴奏付きメロディー譜の視奏と移調)	既習課題の確認	演習課題の読譜と演奏を反復する			
	7	移調奏① (アルト譜表の読譜)	移動ド練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	15	移調奏・弾き歌い・読譜のまとめ	既習課題の確認	演習課題の読譜と演奏を反復する			
	8	移調奏② (移調読譜／視唱と演奏)	上下2度の読み替え練習	演習課題の読譜と演奏を反復する							
授業の概要											
演奏・鑑賞・創作あるいは音楽教育活動等に必要ソルフエージュ力を、実践を通して身につけていく。 学生の専門性や進路を視野に入れながら演習を行う。											
教科書・テキスト等	適宜プリントを配布			成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント			
					平常点(態度・行動観察) 課題／レポート		30% 20%	予習・復習、授業の取り組みの態度 課題の取り組み			
参考書・参考資料等					期末テスト		50%	授業内容を理解し、応用できるか			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M3C24 ソルフエージュⅥ	桑原 理恵	単独	2 単位	音楽学科 4 年次	後期	選択	選択必修		選択必修	A B C D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
譜面から多くのことを読みとる力をつける。 高度な視唱・弾き歌い・移調奏ができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明 演奏とソルフエージュ力について	シラバスの熟読	自分が学修している楽曲の楽譜を熟読する	9	合唱曲の読譜① (2 声・3 声の合唱)	視奏練習	演習課題の読譜と演奏を反復する		
	2	楽譜から読みとる (旋律・和音・リズムが表現しているもの)	全調スケール・ カデンツ練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	10	合唱曲の読譜② (4 声の合唱)	視奏練習	演習課題の読譜と演奏を反復する		
	3	音を探る・活かす① (2 声のアンサンブル)	読譜練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	11	合唱曲の読譜③ (さまざまな合唱スタイル)	視奏練習	演習課題の読譜と演奏を反復する		
	4	音を探る・活かす② (拍子とテンポ)	読譜練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	12	拍子とリズム① (変拍子の読譜とリズム)	リズム練習	演習課題の読譜と演奏を反復する		
授業の概要	5	音を探る・活かす③ (リズムとハーモニー)	読譜練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	13	拍子とリズム② (民族的なリズムの読譜と演奏)	リズム練習	演習課題の読譜と演奏を反復する		
学生 の 専門性や進路を視野に入れながら演習を行う。 ※ソルフエージュⅤと合わせて受講することが望ましい。	6	音を探る・活かす④ (ハーモニーとオブリガート)	読譜練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	14	20 世紀の記譜法 (読譜と演奏)	リズム練習	演習課題の読譜と演奏を反復する		
	7	器楽曲の読譜① (楽曲のスタイルと各パートの役割)	視奏練習	演習課題の読譜と演奏を反復する	15	移調奏・弾き歌い・読譜のまとめ	既習課題の確認	演習課題の読譜と演奏を反復する		
	8	器楽曲の読譜② (3 声体初見／フレージング)	視奏練習	演習課題の読譜と演奏を反復する						
教科書・テキスト等	適宜プリントを配布			成績 評価 基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント		
					平常点 (態度・行動観察)	30%	予習・復習、授業の取り組みの態度			
					課題／レポート	20%	課題の取り組み			
参考書・参考資料等					期末テスト	50%	授業内容を理解し、応用できるか			

科 目 名		担 当 者		担当形態		単位数		対象学生		開講時期		卒業要件		教職課程		保育士		音楽療法		ディプロマポリシー	
マーチング指導法		原 幸雄		単独		1 単位		音楽学科・こども学科 3 年次		前期		選択								A B D E F	
授業のテーマ及び到達目標		授 業 計 画																			
マーチングを教育の一環として捉え、コンテの書き方、実技指導法を習得することを目標とする。	回	学修内容				事前学修		事後学修		回	学修内容				事前学修		事後学修				
	1	基本動作（美しい姿勢、静止間の方向変換）				シラバスを読む		静止間の方向変換を練習		9	デザインペーパーの理解。記号とのリンク				コンテ用紙、記号表を準備する		配付の簡単なルーティーンを解答しておく				
	2	L字動作で前進、足踏み、方向変換の行進間動作				L字動作順列の予習		L字動作を練習		10	ペーパートレーニング				ペーパートレーニングについて疑問点をまとめる		配付の楽譜を見ておく				
	3	4 人一組のピンフィール（R P、L P）トリックスピン（R T S、L T S）の演習				L字動作を完成させておく		R P、L P、R T S、L T S の練習		11	楽曲に合わせたコンテの作成				配付の楽譜の構成を調べる		コンテを完成する				
	4	4 人一組の、クロスオーバー、MM系等				4 人一組の、クロスオーバー、MM系等の予習		4 人一組の、クロスオーバー、MM系等の練習		12	ドラムメジャーの任務と役割。持ち方、方向変換サイン				配付資料の熟読		本時の内容を練習				
授業の概要																					
音楽的・体育的・精神的・社会的な教育効果が考えられるマーチングについての基本動作やコンビネーションを体得する。コンテ作成の基本を学ぶ。	5	ドリルパターン1を組み合わせ、実際のドリルへの結びつき				R P、L P、R T S、L T S の記号の予習		コンビネーション1の組み合わせの例題練習		13	バレードに必要な演奏開始等のサイン				配付資料の熟読		本時の内容を練習				
	6	ドリルパターン2を組み合わせ、実際のドリルへの結びつき				クロスオーバー、MM系等の記号の予習		コンビネーション2の組み合わせの例題練習		14	バレードを想定したサインの実践				自分なりにバレードを想定したサインの練習		試験に向けた練習				
	7	マーチングの歴史、マーチング用語、記号				配付資料の熟読		用語、記号を覚える		15	L字動作、DM試験、筆記試験				コンテ提出		マーチング指導について考えをまとめる				
	8	構成と演出の考え方				配付資料の熟読		構成と演出についてまとめる													
教科書・テキスト等		講師作成の資料による						成績評価基準	評価方法		割合(%)		評価のポイント								
									右記の内容で総合的に評価		100%		与えられた楽曲のコンテを完成させ提出する 授業で学んだ実技全般の完成度								
参考書・参考資料等																					

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M3T50 弾き歌いⅠ	村橋 和子	単独	1 単位	音楽学科 1 年次	前期	選択			選択必修	B D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
弾き歌いの基本的事項（コード奏、アレンジ、伴奏法）などについて自在に扱える技術を身につける。また各自の課題曲について、演奏技術の向上を目的とする	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション、弾き歌いに必要な学習事項を理解し、授業の進め方を把握する。	シラバスの熟読	課題曲の決定	9	コードの読み替えを理解し、提示曲を移調する。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	伴奏形をアレンジして移調し、提示曲を弾き歌いする		
	2	全調の主要三和音のコードを理解し、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	プリントを熟読する 各自の課題曲練習	#♭1つまでの主要三和音を練習する	10	童謡・唱歌の成り立ち、歌詞の意味についても理解し演奏。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	提示曲を弾き歌いする		
	3	メジャー、マイナーコードを理解し、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	コード名から音を弾く練習をする	11	中学校音楽の課題曲について背景を発表し、演奏。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	提示曲を弾き歌いする		
	4	ディミニッシュ、セブンスコードを理解し、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	コード名から音を弾く練習をする	12	高等学校音楽の課題曲について背景を発表し、演奏。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	提示曲を弾き歌いする		
	5	その他のコードを理解し、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	コード名から音を弾く練習をする	13	各自の試験の課題曲について背景を発表し、演奏。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	注意点を考慮し、試験課題を弾き歌いする		
	6	伴奏形のアレンジを理解し、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	伴奏形をアレンジして提示曲を弾き歌いする	14	各自の試験の課題曲について背景を発表し、演奏。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	注意点を考慮し、試験課題を弾き歌いする		
	7	伴奏形のさらなるアレンジを理解し、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	伴奏形をアレンジして提示曲を弾き歌いする	15	まとめ 各自の課題曲による弾き歌いの試験	各自の課題曲練習	コード伴奏で様々な曲を弾き歌いする		
				備考 音楽療法コース必修						
教科書・テキスト等	青拓美のメロディー付き歌伴奏集（音楽之友社）			成績評価基準	評価方法	割合（％）	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点（態度・行動観察） 期末試験	20% 80%	授業への集中、弾き歌い課題への取り組み 弾き歌い試験			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M3T51 弾き歌いⅡ	村橋 和子	単独	1 単位	音楽学科 1 年次	後期	選択			選択必修	B D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
各自の課題曲について、演奏技術を向上し、将来、音楽教育や音楽療法現場、またいろいろな音楽活動ステージで豊かな音楽性あふれる弾き歌いができることを目標とする	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 夏休みの課題発表	シラバスの熟読	課題曲の決定	9	タンゴのリズムパターンを学び、提示曲を弾き歌い。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する		
	2	2、4 ビートのリズムパターンを学び、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する	10	ラテンの代表的なリズムパターンを学び、提示曲を弾き歌い。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する		
	3	スウィング・4 ビートのリズムパターンを学び、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する	11	ワルツのリズムパターン学び、提示曲を弾き歌い。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する		
	4	8 ビートのリズムパターン(基本形、パンプ)を学び、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する	12	これまで学んだリズムパターンを基に、曲の雰囲気さらに演出できる伴奏形を考える。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する		
	5	8 ビートの様々なリズムパターンを学び、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する	13	各自の試験の課題曲について背景を発表し、演奏。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	注意点を考慮し、試験課題を弾き歌いする		
	6	伴奏形とともに曲に合わせた声の使い方について学び、提示曲を弾き歌いする。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する	14	各自の試験の課題曲について背景を発表し、演奏。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	注意点を考慮し、試験課題を弾き歌いする		
	7	ブルース、スローロックのリズムパターンを学び、提示曲を弾き歌い。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する	15	まとめ 各自の課題曲による弾き歌いの試験	各自の課題曲練習	コード伴奏で様々な曲を弾き歌いする		
	8	ブリウギのリズムパターンを学び、提示曲を弾き歌い。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する	備考 音楽療法コース必修					
教科書・テキスト等	青拓美のメロディー付き歌伴奏集（音楽之友社）			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点（態度・行動観察） 期末試験	20% 80%	授業への集中、弾き歌い課題への取り組み 弾き歌い試験			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M3C52 日本の伝統音楽Ⅰ (日本の伝統的な歌唱を含む。)	二宮 晶代	単独	2 単位	音楽学科 3 年次	前期	選択	必修			ABDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
ほとんどの学生は、意識することなく『西洋音楽』を学んでいる。日本には、他の文化と同様に長い歴史をもつ多様な音楽や楽器があり、西洋音楽とは違った旋律や音色や表現方法があることを理解することを目標とする。また小中学校の教育課程に日本音楽が取り入れられており、教職を志望する学生は必要な知識を習得することをねらいとする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	(古代音楽 1) 日本の伝統音楽の概観を理解する。古代音楽について理解する。	シラバスを読み、授業の概要、目標を理解する	西欧音楽と対比して日本の伝統音楽について考察する	9	(文楽)	インターネット等で関連事項を検索する	TVや舞台を鑑賞する		
	2	(古代音楽 2)	前回の資料、講義を復習する	歴史的流れを考え、日本音楽の全貌を考える	10	(歌舞伎)	インターネット等で関連事項を検索する	TVや舞台を鑑賞する		
	3	(雅楽 1)	インターネット等で関連事項を検索する	DVDやCDを鑑賞する	11	(箏曲 1) 生演奏を聴き、箏曲を体感する。またその歴史や特徴を理解する。	インターネット等で関連事項を検索する	実際に楽器に触れて、音色を確認する		
	4	(雅楽 2)	前回の資料、講義を復習する	社寺の雅楽演奏を見学する	12	(箏曲 2)	練習用楽器で各自、箏の練習をする	音階、リズム、音色を体感する		
授業の概要										
日本の伝統音楽とその歴史的な推移を理解するとともに、多様な音楽を鑑賞し、それぞれの音楽の特徴を理解する。箏曲については、楽器の特徴や演奏法を理解し、初歩的な楽曲の演奏を行う。	5	(琵琶楽 1) 琵琶楽について、その歴史や表現方法を理解する。	インターネット等で関連事項を検索する	琵琶のしくみや歴史を考察する	13	(箏曲 3)	練習用楽器で各自、箏の練習をする	西洋音階との関連を理解し、日本音階を作成する		
	6	(琵琶楽 2) 学外講師による実技演奏予定。楽器としての琵琶やその演奏を実際に体験する。	臨摩琵琶、筑前琵琶等の歴史を調べる	演奏体験をもとに琵琶の特徴を考察する	14	(歌唱法) 地歌(箏曲の歌)を理解し、発声の練習をする。	声明、琵琶楽、能楽の歌を聴く	西洋音楽と日本音楽の声の出し方を考察する		
	7	(声明)	日本の仏教における音楽の役割を考える	声明のリズム、内容を体感する。	15	(まとめ)	全講義の資料を整理する	全講義の資料を見直し、全体像を確認する		
	8	(能楽)	能楽以前の伝統音楽からの流れを考える	能楽の構成や歴史を考察する						
教科書・テキスト等	必要な資料を配付			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					筆記試験	50%	基礎的な内容の確実な理解度			
					実技試験(箏曲)	30%	初歩的な曲に対する真摯な取り組み			
参考書・参考資料等					平常点(授業態度)	20%	積極的な授業態度。無断欠席がないこと			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M3C53 日本の伝統音楽Ⅱ (和楽器を含む。)	二宮 晶代	単独	2 単位	音楽学科 3 年次	後期	選択	必修			ABDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
『日本の伝統音楽Ⅰ』に引き続き、日本の多様な音楽、楽器に対する理解を深めることをねらう。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	(三味線音楽 1) 三味線音楽について、その歴史や表現方法を理解する。	インターネット等で関連事項を検索する	三味線音楽の音階を作成する	9	(横笛) DVD、CD、資料で横笛の歴史や表現方法を理解する。	インターネット等で関連事項を検索する	社寺等の楽器演奏を鑑賞する		
	2	(三味線音楽 2) 実技指導。楽器の基礎と音階を理解し、全員が演奏体験をする。	三味線の音階の特徴を調べる	三味線の音階、リズムを考察する	10	(レポート指導 1) 西洋音楽と日本の伝統音楽についてのレポート提出する。	講義資料や書籍、ネット等で研究する	レポートの考察をする		
	3	(三味線音楽 3) 実技練習。実技練習後、初歩的な曲を合奏する。	三味線が弾けるよう練習する	三味線の楽譜を見て、音階、リズムを理解する	11	(レポート指導 2) 全体的講評とともに、個別に指導する。	講義資料や書籍、ネット等で研究する	レポートの考察をする		
	4	(尺八 1) DVD、CD、資料で尺八の歴史や表現方法を理解する。	インターネット等で関連事項を検索する	楽器の構造と特徴を考察する	12	(現代邦楽) 多弦等の生演奏を鑑賞する。	十七弦、二十弦等について調べる	多弦等が開発された歴史や意味を考察する		
授業の概要										
事に加えて、三味線、尺八等の基本的な実技演奏の練習を通じて、多様な拍子、旋律、奏法、表現方法等を学び、日本の伝統音楽、伝統文化について理解を深めていく。教職を志望する学生は、必要な知識を習得し、教員採用試験についての準備も行う。	5	(尺八 2) 実技指導。楽器の基礎と音階を理解し、全員が演奏体験をする。	尺八の音階について調べる	尺八のリズムや音階を考察する	13	(邦楽合奏) 箏、三味線と西洋楽器との合奏を鑑賞する。	合奏可能な曲目を調べる	それぞれの楽器で練習する		
	6	(尺八 3) 実技練習。五線譜と尺八楽譜の違いを理解し、演奏する。	尺八の音の出し方を研究する	三曲(箏、三味線、尺八の合奏)について考察する	14	(まとめ 1) 前期、後期の学習のまとめ	全講義の資料プリントを持参する	全講義の資料プリントの確認と考察する		
	7	(和太鼓 1) DVD、CD、資料で和太鼓の演奏や表現を理解する	インターネット等で演奏を鑑賞する	和太鼓や日本の打楽器について調べる	15	(まとめ 2) 音楽教職課程のまとめと模擬試験	全講義の資料プリントを熟読する	教員採用試験の準備をする		
	8	(和太鼓 2) 実技指導。楽器の基礎を理解し、全員が演奏体験をする。	和太鼓のリズムや楽器構成等を調べる	西洋打楽器と和太鼓の相違を考察する。						
教科書・テキスト等	必要な資料を配付			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					実技試験(箏曲)	50%	基礎的な内容の確実な理解度			
					筆記試験	30%	初歩的な曲に対する真摯な取り組み			
参考書・参考資料等					平常点(授業態度)	20%	積極的な授業態度。無断欠席がないこと			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M3C31 音楽科教育法Ⅰ	岩山 恵美子	単独	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	選択	必修		選択必修	A B C E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
「音楽科では何を学ぶか」 学習指導要領の内容を読み解き、教科の目標及び学年の目標、さらに、各領域における指導内容を理解し、学習活動案を作成することができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
授業の概要 学習指導要領の内容を読み解くことを通して、身につけさせたい資質能力について理解を深める。また、ボランティア活動を通して得た生徒の実態や実践例の研究で得た指導の工夫点を活かして、自分なりの本時展開案をつくることできる。。	1	音楽科教育と育てたい学力の三要素と資質能力の三つの柱 音楽科の見方・考え方	シラバスを熟読しておく	「めざす音楽の授業像」について自分の考えをまとめる	9	学習活動計を構想しよう ・目標に迫る学習活動の工夫	配付資料を読み、中学生の実態を把握しておく	1 単位時間分の学習活動を考える		
	2	中学校音楽科の目標と[共通事項]	学習指導要領解説編の当該箇所を読んでおく	目標と音楽を形づくっている要素を一覧にまとめる	10	学習活動構想のプレゼンテーション 検討と改善	プレゼンテーションの準備をしておく	気づきをもとに自作の学習活動構想を見直す		
	3	音楽科の内容 A「表現」(1)歌唱の内容 変声期の指導	学習指導要領解説各学年の (1)p109を読んでおく	歌唱の指導内容をまとめる	11	学習展開案の様式	配付資料を熟読しておく	自分の構想を学習活動案としてまとめる		
	4	音楽科の内容 A「表現」(2)器楽の内容	学習指導要領解説各学年の A (2)を読んでおく	器楽の指導内容をまとめる	12	高等学校芸術科（音楽）の目標	高等学校学習指導要領解説の当該箇所を読んでおく	芸術科（音楽）について目標をまとめる		
	5	音楽科の内容 A「表現」(3)創作の内容	学習指導要領解説各学年の A (3)を読んでおく	創作の指導内容をまとめる	13	高等学校芸術科（音楽）の指導内容 (高等学校授業観察)	高等学校学習指導要領解説の当該箇所を読んでおく	指導内容を一覧にまとめる		
	6	音楽科の内容 B「鑑賞」の内容と配慮事項 日本の伝統的な音楽の指導	学習指導要領解説各学年の B を読んでおく	鑑賞の指導内容をまとめる	14	代表授業と検討会 A ・学習活動の流れと発問	代表者は授業の準備。他は配布資料を熟読しておく	改善の視点から自作の学習活動案を見直し修正する		
	7	授業をのぞいてみよう (中学校の授業観察)	配付資料を熟読しておく	学習活動についての気づきをまとめる	15	代表授業と検討会 B ・生徒主体と教師の支援 レポート課題の提示	代表者は授業の準備。他は配布資料を熟読しておく	改善の視点から自作の学習活動案を見直し修正する		
	8	学習活動を構想しよう ・教材の内容と目標設定	「夏の思い出」の弾き歌いを練習しておく	教材の特徴をまとめる						
教科書・テキスト等	中学校学習指導要領解説音楽編（平成29年）（教育芸術社） 高等学校学習指導要領解説編芸術（平成30年）（教育出版） 中学生の音楽1（教育芸術社）中学生の音楽2・3 上下			成績 評価 基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
	レポート		40%		内容充実、論旨の一貫性、自分の考え					
参考書・参考資料等	授業中、適宜資料を配付する				課題検討の取り組み		40%	事前事後学修の内容や意見、積極的参加		
					教育支援ボランティア		10%	ボランティアの取り組みと生徒理解		
					毎時間の振り返り		10%	課題についての理解度、自分の考え		

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M3C32 音楽科教育法Ⅱ	岩山 恵美子	単独	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	選択	必修		選択必修	A B C E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
「生徒の主体的な学びを促す授業を構想しよう」 学習指導要領の内容や教材曲の音楽的特徴をもとに選択した題材に、生徒が意欲をもって取り組むような指導を構想し、題材の指導計画にまとめることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
授業の概要 生徒主体の学習活動を工夫することや教育支援ボランティア活動における指導体験を通して、アクティブラーニングの視点に立った授業づくりについての理解とその方法を身につける。	1	授業の質を高める	シラバスを熟読しておく	「授業の質」について考えをまとめる	9	I C T 及び教育機器の活用	配付資料を熟読しておく	提示された題材の中から1題材を選択しておく		
	2	学習指導計画について アクティブラーニングの視点と言語活動の充実	心に残っている音楽の授業についてまとめておく	実践例（映像）から学んだことをまとめる	10	題材の指導計画について 任せる内容と教える内容	選択した教材の音楽的特徴を調べておく	題材で付けたい資質能力をまとめる		
	3	学習指導案について 題材構成と教材選択 中学生の音楽的成長	各学年の音楽教科書の内容を比較してまとめておく	「題材構成」についてまとめる	11	学習活動と教師の支援の工夫	主な学習活動を考えておく	題材の指導計画を作成する		
	4	教材研究の視点 「花」の特徴と背景	「花」の弾き歌いを練習しておく	「花」の音楽的特徴をまとめる	12	題材の指導計画案の発表と検討会	指導計画を作成するときに工夫した点をまとめておく	検討会の内容をまとめ、指導計画を修正する		
	5	導入の工夫 教材との出会い「花」	「花」の弾き歌いを練習しておく	「花」の導入の学習活動を考える	13	題材の指導計画案の発表と検討会	指導計画を作成するときに工夫した点をまとめておく	検討会の内容をまとめ、指導計画を修正する		
	6	展開の工夫 協働的な学習「花」 グループ活動の工夫	「花」の各声部を歌えるように練習しておく	「花（3番）」の目標に迫る学習活動を工夫する	14	生徒の実態に応じた指導 特別に支援を要する生徒への指導	配付資料を熟読しておく	生徒の実態把握についてまとめる		
	7	調べ学習の工夫「ブルタバ」 情報収集と活用 著作権	楽曲や作曲家について調べておく	楽曲が生まれた背景などについてまとめる	15	学校行事における音楽科の役割 レポート課題の提示	心に残っている音楽関係の行事についてまとめておく	校内合唱コンクールの指導計画を立てる		
	8	対話的な学習の工夫「ブルタバ」 根拠をもった批評	楽曲を聴き、特徴をまとめておく	根拠をもった意見交換を意図した学習活動を作成する						
教科書・テキスト等	中学校学習指導要領解説音楽編（平成29年）（教育芸術社） 中学校の音楽1（教育芸術社）、中学生の音楽2・3上（教育芸術社）、中学生の音楽2・3下（教育芸術社）			成績 評価 基準	評価方法		割合（%）	評価のポイント		
	レポート		40%		内容充実、論旨の一貫性、自分の考え					
参考書・参考資料等	授業中、適宜、参考書の紹介や資料の配付をする				課題検討の取り組み		40%	事前事後学修の内容や意見、積極的参加		
					教育支援ボランティア		10%	ボランティアの取り組みと生徒理解		
					毎時間の振り返り		10%	課題についての理解度、自分の考え		